

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 1 8 号

2 0 1 6 年

(2015年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

学部理念・目的・ポリシー

教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

教育目的

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的スキルを修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

1. アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れ方針)

社会福祉学部は、地域の福祉課題に対応できる専門知識・援助技術を伴う実践能力を持ち、保健・医療・福祉などのさまざまな分野の関係者と連携できる社会福祉専門職の養成を目指しています。

したがって、社会福祉学部では、その実現にむけて、次のような人を求めています。

- ① 高等学校で学ぶ基本的な科目の学力を有する人
- ② コミュニケーション能力、協調性、豊かな人間性をそなえている人
- ③ 熱意・意欲をもって、社会福祉専門職を志す人

2. カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

社会福祉学部では、全学部に通ずる「共通教養教育科目」と学部独自の「専門教育科目」を置いている。

共通教養教育科目は、「リテラシー科目」(外国語科目、情報科目)「教養基礎科目」「課題別教養科目」「健康・スポーツ科目」から構成されている。「課題別教養科目」の中では、土佐学や看護師などの他の保健医療福祉専門職との連携を学ぶことができる。

専門教育科目ではソーシャルワーカーとして相談援助を実践し行動するための知識・技能を基礎から高度な専門性を持つところまで学び、社会福祉士の国家資格取得を目指す。

第一段階では社会福祉領域の基礎を学ぶ。ここでは、「共通教養教育科目」と並行して「基本科目」（社会福祉入門演習、現代社会と福祉など）を履修することで、人文・社会・自然科学にまたがり幅広い知識を身につけると同時に社会福祉実践を学ぶ上での基礎を学ぶ。

第二段階では相談援助の基礎から実践までを学ぶ。ここでは、「社会福祉制度科目」（社会保障論、児童・家庭福祉論など）「相談援助基礎科目」（相談援助の理論と方法、面接技法など）「からだところの理解科目」（人体の構造と機能及び疾病、精神医学など）を履修することで、相談援助に必要な知識・技能を学ぶ。さらに、「相談援助実践科目」（相談援助演習、相談援助実習など）を履修することで、これまで学んできた相談援助の実践能力を演習・実習を通して養成する。また、介護福祉を併せて学ぶために「介護福祉理解科目」（介護の基本、介護過程）を履修する。

第三段階では社会福祉領域の専門性を発展させる。ここでは、「地域・国際福祉科目」（地域福祉論、国際福祉論など）「社会復帰支援科目」（ケアマネジメント論、就労支援サービスなど）を履修することで、相談援助を行う上での視点を広げ専門性をさらに高める。また、介護福祉士となるために「介護福祉実践科目」、精神保健福祉士となるために「精神保健福祉実践科目」を学ぶことで、専門的な視点を広げる。

3つの段階を貫くものとして「総合科目」（社会調査の基礎、社会福祉専門演習など）を設置しており、調査・研究という手法を通して科学的視点から地域の福祉課題を発見して解決できる人材、地域における福祉の担い手となる人材を育成する。また、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野において必要な知識・技能を学ぶこともできる。

社会福祉士国家試験受験資格取得を前提として、希望者は介護福祉士国家試験受験資格もしくは精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる（取得人数制限有り）。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

社会福祉学部では、共通教養教育科目と社会福祉学部専門教育科目を合わせて124単位以上（必修科目38単位と選択科目56単位以上）履修することにより以下の能力や技術を修得した学生に、学士（社会福祉学）を授与する。

（1）社会福祉に関する様々な分野で活躍できるようにノーマライゼーションを基本的視点として人権擁護などの価値観を身につけていること。

（2）多様化・複雑化する人々の福祉ニーズに対応して、その自立と生活の質の向上を支援するための専門的な知識や技術を獲得していること。

（3）社会福祉専門職として地域における福祉課題を科学的視点で捉え、問題解決できる能力を身につけていること。

（4）保健・医療・福祉の専門職と連携して支援を行う能力と、対象者のみならず地域から国際社会までを視野に入れて活動できる能力を身につけていること。

目 次

I. 2015年度を振り返る

1. 2015年度 社会福祉学部概括 1
2. 2015年度 社会福祉学部主要行事 3
3. 2015年度 社会福祉学部時間割 4

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

社会福祉学部 教員一覧（2015年度）	6
1. 杉 原 俊 二	8
2. 田 中 き よ む	11
3. 長 澤 紀 美 子	15
4. 丸 山 裕 子	17
5. 宮 上 多 加 子	19
6. 後 藤 由 美 子	22
7. 鈴 木 孝 典	24
8. 西 内 章	27
9. 西 梅 幸 治	30
10. 山 村 靖 彦	32
11. 井 上 健 朗	35
12. 河 内 康 文	38
13. 遠 山 真 世	40
14. 鳩 間 亜 紀 子	42
15. 福 間 隆 康	44
16. 三 好 弥 生	46
17. 稲 垣 佳 代	48
18. 上 田 恵 理 子	50
19. 加 藤 由 衣	52
20. 鈴 木 裕 介	54
21. 田 中 眞 希	56
22. 二 本 柳 覚	58
23. 橋 本 力	60

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部 委員会体制一覧（2015年度）	62
1. 教 務 委 員 会	63
2. 入 試 委 員 会	65
3. 学 生 委 員 会	67
4. 実 習 委 員 会	68
5. 就 職 委 員 会	70
6. 広 報 委 員 会	71
7. 健 康 長 寿 セ ン タ ー	74
8. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	78
9. 災害対策プロジェクト	80
10. 総務・予算委員会	82
11. 国試対策WG活動報告	85

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	87
2. 国 際 交 流	88
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	91
4. 太 鼓 部	92
5. 池 手 話 サ ー ク ル	93
6. い け と べ !	94
7. イ ケ あ い	95
8. ハ モ ☆ イ ケ	96
9. か ん き も ん	97
10. ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	98
11. 特別支援学校修学旅行ボランティア	100

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2015年度）

編 集 後 記

I

2015年度を振り返る

2015年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

1. 教員体制

- ・2015年度は新採用2名が加わり教員数24名。
職位構成は教授6名、准教授5名、講師6名、助教7名。
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

2. 教育

- ・2014年度入学生より新カリキュラムを導入しており、履修モデルに基づいて履修指導を実施。
- ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーについて、新年度の学部ガイダンス資料に掲載し周知。
- ・国家資格取得のための3コース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)に関するオリエンテーションを実施。
- ・8月から10月にかけて3回生と介護・社会福祉コースの4回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・介護・社会福祉コース3回生の介護実習が終了し、11月に介護実習連絡協議会に引き続き介護実習報告会を開催。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月18日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

3. 研究

- ・研究成果としては著書1編、査読付論文23編、その他25編、学会発表等28件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第65巻に7編投稿。
- ・科学研究費は平成27年度8件応募、5件採択で採択率62.5%、平成28年度は8件応募。
- ・科研費での他大学教員との共同研究は、研究代表者2名、研究分担者5名。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第17号を作成・公表。
- ・学部懇談会の場を活用して、研究・教育面での学部FD研修会を年7回開催。
- ・教育面の学外研修では、「日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロックセミナー」(1名)、「日本精神保健福祉士養成校協会全国研修会」(3名)、「全国社会福祉教育セミナー」(2名)、「介護福祉士養成施設協会中国四国ブロック研修会」(1名)、介護教員講習会(1名)、「公立大学協会社会福祉学系部会連絡会」に(1名)参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)関連の研修では、「SPODフォーラム2015」(2名)、「香川大学新任教員研修会」(1名)に参加。

5. 入学生と2016年度入学試験

- ・4月に第19期生76名(県内出身32名、男子8名、留学生1名)が入学。
- ・推薦入試では、県内枠への志願者が22名(-9)で志願倍率1.1倍、全国枠は22名(-16)で2.2倍。出願者は昨年度より大幅に減少。
- ・一般入試の志願者は、前期日程は昨年と同数、後期日程は増加した。前期日程が128名で志願倍率3.7倍、合格倍率2.8倍、後期日程が153名(+46)で志願倍率30.6倍、合格倍率8.0倍。

2015 年度を振り返る

- ・私費外国人入試に2名の応募があり、1名合格。

6. 卒業生と就職状況

- ・3月に第15期生71名（男子8名）が卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職希望者69名の内69名（100%）の就職が3月末までに決定し、25名（36%）が県内に就職。
- ・就職先の内訳は、福祉施設等35%、医療施設29%、社会福祉協議会4%、公務員等15%、一般企業17%。

7. 3 福祉士資格と国家試験

- ・国試対策WGが4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、社会福祉士養成校協会の模擬試験を実施。
- ・国試合宿勉強会を1月に2泊3日で実施。いの町の高知県立高知青少年の家を利用し、4回生40名が参加。
- ・1月末に実施された第28回社会福祉士国家試験に69名受験して51名合格（合格率73.9%／平均26.2%）、第18回精神保健福祉士国家試験に26名受験して26名合格（合格率100.0%／平均61.6%、24名が社会福祉士国家試験にも合格）。
- ・既卒を含めた合格率（受験者10人以上の福祉系大学等）は、社会福祉士が62.2%で215校中19位、精神保健福祉士が93.1%で109校中4位。
- ・18名が介護福祉士資格を取得（12名が社会福祉士国家試験合格）し、その内の10名（55.6%）が介護職に就職。

8. 地域貢献活動

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として3講座を10月から12月に掛けて開催、延べ76名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパスを8月2日（日）に開催し、社会福祉学部の参加者87名。8月1日に開催した「高校生のための公開講座」には44名の高校生が参加。
- ・「高知医療センターと高知県立大学との包括的連携に関する協定書」に基づき、高知医療センターの地域医療連携室と連携事業（社会福祉学部教員によるコンサルテーション）を実施。
- ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。

9. 広報活動

- ・オープンキャンパスや進学相談会で配布する社会福祉学部の2015版パンフレット作成。
- ・入試関係構想担当者会議を組織し、高知県内18校を訪問。学部の説明を行うとともに、各校の進路希望について情報収集を実施。
- ・学部提案型の出前講座を佐川高校で試行的に実施。
- ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の学生16名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
- ・学部パンフレットの大幅改定作業に着手し、2016年度から活用予定。学部ホームページの改訂について検討を開始。

10. 国際交流活動

- ・タイにおける国際ソーシャルワーク研修を2月末から3月上旬に実施。1回生6名、2回生4名が参加し、加藤助教が引率。
- ・タイのウボンラーチャターニー大学と高知県立大学との協定書締結について、長澤教授が協議。
- ・エルムズ大学短期研修に2回生2名が参加。

2015年度社会福祉学部の主要行事

4月	2-3日(木-金)	学生ガイダンス
	6日(月)	第1回連絡会・教授会
	7日(火)	入学式(県民文化ホール、18期生73名)
	9日(木)	前期授業開始(～8月7日)
	13日(月)	第2回連絡会・教授会
	21日(火)	新入生バスハイク(県立香北青少年の家)
	27日(月)	第3回連絡会・教授会
5月	11日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	16日(土)	学年間交流会
	18日(月)	卒業研究構想発表会
	25日(月)	第4回連絡会・教授会
6月	1日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ-①)報告会
	8日(月)	第5回連絡会・教授会/第1回懇談会/第1回FD研修会
	22日(月)	第6回連絡会・教授会
	29日(月)	タイ国際SW研修報告会
7月	13日(月)	第2回懇談会/第2回FD研修会
	27日(月)	第7回連絡会・教授会
8月	1日(土)	高校生のための公開講座
	2日(日)	オープンキャンパス
	24日(月)	第8回連絡会・教授会
9月	28日(月)	第9回連絡会・教授会
10月	1日(月)	後期授業開始(～2月18日)
	19日(月)	第3回懇談会/第3回FD研修会
	26日(月)	第10回連絡会・教授会
	28日(水)	卒業研究中間発表会
	31日(土)	第1回リカレント教育講座
11月	9日(月)	第4回懇談会/第4
	14-15日(土-日)	推薦入学試験
	16日(月)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅱ-②)報告会
	20日(金)	第11回連絡会・教授会
	22日(日)	第2回リカレント教育講座
	30日(月)	第12回連絡会・教授会
12月	5日(土)	第3回リカレント教育講座
	22日(火)	第13回連絡会・教授会/第5回懇談会/第5回FD研修会
1月	6-8日(水-金)	国家試験合宿勉強会(高知青少年の家:いの町)
	18日(月)	第14回連絡会・教授会
	23-24日(土-日)	第28回社会福祉士国家試験・第18回精神保健福祉士国家試験
	25日(月)	第15回連絡会・教授会
2月	8日(月)	相談援助実習報告会
	10日(水)	卒業研究発表会/4回生を送る会
	25-26日(木-金)	前期日程入学試験/私費外国人入試
	22日(月)	第16回連絡会・教授会/第6回懇談会/第6回FD研修会
3月	3日(木)	第17回連絡会・教授会
	8日(火)	相談援助実習連絡協議会
	12日(土)	後期日程入学試験
	14日(月)	第5回懇談会
	15日(火)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	16日(水)	第18回連絡会・教授会/第7回懇談会/第7回FD研修会
	17日(木)	卒業式(県民文化ホール、15期生71名卒業)
	23日(月)	第19回連絡会・教授会
28日(月)	第20回連絡会・教授会	

平成27年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

月	1時限			2時限			3時限			4時限			5時限			
	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	科目名	教員	教室	
月	1	英語コミュニケーションIC	揭示	英語コミュニケーションIC	揭示	13:00~14:30	法学	田中康	大講義室	14:40~16:10	介護総合演習Ⅱ	F110	田中康・上田・池添・三好	16:20~17:50	コンピュータリテラシー(社福)	名和
	2	地域学概論	宇都宮	英語コミュニケーションIC	揭示	(介護)こころとからだのしくみⅠ	福祉研究法入門	三好	F110	介護総合演習Ⅱ	形原	F110	子育て支援論	形原	E103	
	3	英語コミュニケーションIC	揭示	医療ソーシャルワーカー論	鈴木裕	E102	(社会)相関援助演習	(介護)認知症の理解Ⅱ	丸山	E103	子育て支援論	丸山	E103	基礎化学	丸山	E103
	4	(介護)認知症の理解Ⅰ	後藤	(介護)介護過程Ⅲ	三好	F110	(介護)認知症の理解Ⅱ	(介護)相関援助演習	山本・上田・池添・橋本	E102	健康栄養学	山本・上田・池添・橋本	E204・F207	保健化学	山本・上田・池添・橋本	E204・F207
火	1	現代社会論	田中	社会学と社会システム	(玉里)	大講義室	芸術論Ⅱ	梅田	A318	コンピュータリテラシー(社福)	名和	D207	コンピュータリテラシー(社福)	名和	D207	
	2	相関援助演習Ⅰ	河内	(介護)介護過程Ⅱ	三好	F110	健康栄養学	雅哉	A319	心の科学	池田	D207	基礎化学	池田	D207	
	3	(介護)相関援助演習Ⅰ	高橋・橋本・福山・西内	(社会)相関援助演習	山本・上田・池添・橋本	D222・E102・E204・F207	現代社会と福祉Ⅰ	大井	A320	政治学	清水	A318	保健化学	清水	A318	
	4	社会福祉史	形原	(介護)相関援助演習	山本・上田・池添・橋本	D222・E102・E204・F207	現代社会と福祉Ⅰ	長澤	E103	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中・上田	F110	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中・上田	F110	
水	1	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	清原	コンピュータリテラシー(健康)	名和	A024	日本国憲法	岩倉	D222	日本国憲法	岩倉	D222	環境衛生	岩倉	A318	
	2	健康スポーツ科学Ⅱ(社福)	常行	健康スポーツ科学Ⅰ(看護)	清原	体育館	基礎生物学	菊沼	大講義室	現代科学文化論	一色	A318	保健化学	一色	A318	
	3	相関援助の理論と方法Ⅰ	加藤	健康スポーツ科学Ⅱ(看護)	田中	体育館	福祉対象入門	福間	F110	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中・上田	F110	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中・上田	F110	
	4	(介護)相関援助の理論と方法Ⅰ	加藤	社会保険論Ⅰ	西梅	E103	福祉対象入門(※)	相関	E103	人体の構造と機能及び疾病(※2)	奥谷・谷口	E102	福祉研究演習Ⅰ	担当教員		
木	1	英語コミュニケーションIC	野辺	英語コミュニケーションIC	揭示	提示	社会保険と生活(※1)	田中	A318	土佐の歴史と文化	橋本・他	A318	日本語表現法(留学生向け)	(専任)	A309	
	2	英語コミュニケーションIC	後藤	英語コミュニケーションIC	揭示	提示	家族関係論	池添・他	大講義室	社会福祉入門演習	井上・福理・山本・福間	E102	日本語表現法(留学生向け)	(専任)	A309	
	3	女性福祉論	長澤	医療福祉論	井上	E102	基礎統計学	風間	A319	高齢者福祉論Ⅱ	橋本・三好	E103	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		
	4	精神保健福祉援助演習	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	就業支援サービス	遠山・福理	E103	相関援助演習Ⅰ	西梅ほか	F110・F207	高齢者福祉論Ⅱ	橋本・三好	E103	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		
金	1	健康スポーツ科学Ⅰ(看護)	清原	コンピュータリテラシー(看護)	名和	D207	居住環境論	宇野	A318	介護介護の基本Ⅰ	河内	E204	介護総合演習Ⅱ	田中・上田	F110	
	2	心理学理論と心理的支援	(川崎)	物理と自然法則	風間	A318	チーム形成論	山本・他	A319	(介護)高齢者福祉論Ⅱ	橋本・三好	E103	(介護)介護総合演習Ⅱ	田中・上田	F110	
	3	(介護)介護過程Ⅰ	宮上	公的扶助論	田中	F110	地域福祉論Ⅰ	山本	E103	(介護)生活支援技術Ⅱ	田中・上田	F110	(介護)介護総合演習Ⅱ	田中・上田	F110	
	4	介護心理学理論と心理的支援	(川崎)	精神保健福祉援助技術各論	福重	E102	(介護)公的扶助論	田中	E102	精神保健福祉論	鈴木	E102	(介護)医療的ケアⅠ	三好	家政実習室	
集中講義	1	地域学実習Ⅱ	担当教員	介護実習Ⅱ	後藤・河内・三好・田中・眞	提示	精神保健福祉援助演習Ⅱ	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	E102・F207	権利擁護と成年後見制度	(上村)	E102	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		
	2	介護実習Ⅱ-②	田中・池添・三好・河内・上田	福祉実習Ⅱ-②	田中・池添・三好・河内・上田	提示	精神保健福祉援助演習Ⅱ	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	E102・F207	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		
	3	地域福祉活動Ⅰ	未開講	福祉実習Ⅱ-③	田中・池添・三好・河内・上田	提示	精神保健福祉援助演習Ⅱ	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	E102・F207	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		
	4	相関援助実習	西梅ほか	精神保健福祉援助実習Ⅰ	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	提示	精神保健福祉援助演習Ⅱ	丸山・鈴木・池添・橋本・西内	E102・F207	福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		福祉研究演習Ⅲ(※3)	担当教員		

[備考]
 ※1 受講登録は、前期集中すること
 ※2 集中講義も実施し、合わせて2単位とする
 ※3 集中講義も実施し、3単位とする

平成27年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

月	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限			
	科目名	教員	教室	10:30~12:00	教員	教室	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
1	英語コミュニケーションID	揭示	揭示	英語コミュニケーションID	廣内・苅沼 一色・他	A319 A305	健康スポーツ科学Ⅱ(健康) 人体の構造と機能及び疾病	清原 奥谷・谷口	体育館 E103			教室
2	英語コミュニケーションID	揭示	揭示	英語コミュニケーションID	山村	大講義室	地域福祉論Ⅱ					
3				福祉行財政と福祉計画	田中幸	大講義室	(介護)地域福祉論Ⅱ	山村				
4												
1	科学と人間	一色	A320	高齢者福祉論Ⅰ	嶋間	E103	地球の科学	大村・一色	A318	健康スポーツ科学Ⅱ(看護)	体育館	体育館
2	日本現代史	清水	A318		田中康	A319	現代人権論	田中康	体育館	健康スポーツ科学Ⅱ(看護)	体育館	体育館
3	(介護)こころからのくみⅡ	宮上	F110	面接技法	杉原	E102	現代社会と福祉Ⅱ	長澤	E102	相談援助の基礎と専門職	大講義室	大講義室
4	(介護)こころからのくみⅡ	宮上	F110	面接技法	杉原	E102	保健医療サービス	井上・鈴木	E103	相談援助演習Ⅱ	大講義室	大講義室
火				(介護)面接技法	杉原	大講義室	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・嶋間・二本柳	F104, F110	(介護)相談援助演習Ⅱ	E102, E104	D21, D22, E102, E103, E204, F201
3				精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・嶋間・二本柳	F104, F110	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	丸山・鈴木孝・嶋間・二本柳	F104, F110	精神保健福祉援助演習Ⅱ	E102, E103, E204	D21, D22, E102, E103, E204, F201
4												
1	対人関係論	内川	A319	社会保障論Ⅱ	田中幸	大講義室	情報リテラシー	風間	A318	資源とエネルギー	A318	自然災害と防災の科学
2	社会福祉基礎演習	井上・福重・山村・嶋間	D222, E102, F110, E204	相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	D221	人体の構造と機能及び疾病	奥谷・谷口	E103	(介護)生活支援技術Ⅱ	F110	(介護)生活支援技術Ⅱ
3	相談援助の理論と方法Ⅲ	加藤	D221	相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	D221	精神保健福祉援助技術総論	丸山	D222	虐待防止論	E102	
4	(介護)相談援助の理論と方法Ⅲ	加藤	D221	(介護)相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	D221	(介護)介護の基本Ⅱ	後藤	F110	福祉研究演習Ⅱ	---	
水				精神保健福祉論	鈴木孝	E103	福祉サービスの組織と経営	福間	E102			
4				事例研究法	西内	E102						
1	英語コミュニケーションID	揭示	A306	英語コミュニケーションID	揭示	倫理学	哲学	吉川	D221	情報処理概論	名和	A306
2	ジェンダーとキャリア	野辺		英語コミュニケーションID	揭示	文学	(介護)介護総合演習Ⅰ	東原	A318	相談援助の基礎と専門職	西内・西梅・加藤	大講義室
3				英語コミュニケーションID	揭示	(介護)介護総合演習Ⅰ	障害者福祉論	遠山	F110	(介護)介護過程Ⅲ		
4				精神保健学	長澤	E103	ケアマネジメント演習	鈴木裕	E103			
木												
1	(介護)コミュニケーション技術	河内	E103	(介護)コミュニケーション技術	河内	E103	住まいと健康と安全	宇野	A318	(介護)介護過程Ⅰ	F110	
2	(介護)生活支援技術Ⅳ	田中・川口・荒牧	F110	(介護)生活支援技術Ⅳ	田中・川口・荒牧	F110	社会調査の基礎	福垣・橋本	E102	(介護)発達と老化の理解Ⅰ	E102	
3	精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102	精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102	精神科リハビリテーション学	二本柳	E103	精神科リハビリテーション学	E103	
4				精神保健福祉援助技術各論	福垣	E204						
金												
1	介護実習Ⅰ	教員		開講月日								
2	(介護)医療的ケアⅡ	三好		揭示								
3	社会福祉特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	未開講		揭示								
4	社会福祉特別演習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	未開講		揭示								
5	社会福祉ふれあい実習	加藤		揭示								
6	地域福祉活動Ⅱ	未開講		揭示								

[備考]
 (※)社会福祉学部学生履修不可
 永国寺開講 火曜日 1限 社会保障と生活(田中幸) 2限 専門職連携論(西内ほか)
 木曜日 1限 現代社会論(橋本)
 看護学部開講科目
 金曜日 2限 社会保障と看護(田中幸)

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)他

2015年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児 童・家 族 福 祉 論
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福 祉 政 策 論／国 際 比 較 研 究
教 授	※ 林 美 朗	博 士（医 学） 博 士（文 学）	精 神 医 学
教 授	丸 山 裕 子	博 士（社会福祉学）	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	後 藤 由 美 子	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准教授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
准教授	山 村 靖 彦	博 士（社会福祉学）	地 域 福 祉 論
講 師	井 上 健 朗	修 士（福祉社会学）	医 療 福 祉 論
講 師	河 内 康 文	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
講 師	鳩 間 亜 紀 子	修 士（社会福祉学）	高 齢 者 福 祉 論
講 師	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	社 会 福 祉 運 営 論
講 師	三 好 弥 生	修 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	上 田 恵 理 子	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	鈴 木 裕 介	博 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	二 本 柳 覚	修 士（福祉マネジメント）	精神科リハビリテーション学
助 教	橋 本 力	博 士（学 術）	高 齢 者 福 祉 論

※林美朗は休職中

○ 研究活動

（原著）※査読有り（1件）

- 杉原俊二「児童虐待をする母親への自分史分析－K J法の諸技術の利用－」『K J法研究』33（編集中）.（2015年8月3日受理）
- 杉原俊二「心理的支援としての自分史」『自分史研究会雑誌』3（編集中）.（2016年1月31日受理）

（研究ノート、事例報告など）（12件）

（1）研究ノート

1. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（I）－Tさんの結婚への道程の物語－」『人間科学』56, 2-7.（2015年5月）
2. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（1）－大学4年からの8年間の年表－」『人間科学』56, 8-13.（2015年5月）
3. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（2）－大学4年まで－」『人間科学』57, 2-7.（2015年7月）
4. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（15）－ある軍事研究者の語る輸送機部隊－」『人間科学』57, 8-12.（2015年7月）
5. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（3）－大学4年・研究生時代（前篇）－」『人間科学』58, 2-7.（2015年9月）
6. 杉原俊二「経歴の説明書（IV）E短大就職時の経歴書作成－「こころ」のフィールドノート（25）－」『人間科学』58, 8-13.（2015年9月）
7. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（4）－大学4年・研究生時代（後篇）－」『人間科学』59, 2-7.（2015年11月）
8. 杉原俊二「経歴の説明書（V）E短大への就職－「こころ」のフィールドノート（26）－」『人間科学』59, 8-13.（2015年9月）
9. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（5）－修士時代（前篇）－」『人間科学』60, 2-7.（2016年1月）
10. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（16）－ある軍事研究者の語る米国沿岸警備隊（その1）－」『人間科学』60, 8-13.（2016年1月）
11. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（6）－修士時代（中篇）－」『人間科学』61, 2-7.（2016年3月）
12. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（17）－ある軍事研究者の語る海上保安庁と沿岸警備隊－」『人間科学』61, 8-13.（2016年3月）

（2）学会発表等（6件）

1. 杉原俊二『「虐待リスク」を抱える保護者支援法（1）－いじめの加害者となった小学2年男児の母親のテーマ分析－』第39回K J法経験交流会（川喜田研究所）2015年5月16日
2. 杉原俊二『「虐待リスク」を抱える保護者支援法（2）－事例を通しての検討－』日本家族研究・家族療法学会第32回東京大会（日本女子大学）2015年9月5日

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

3. 杉原俊二「心理的支援としての自分史」（シンポジウム『自分史分析による積極的な支援』）自分史研究会第2回学術大会（玉川大学）2015年12月20日
4. 杉原俊二「自分史分析と雑談療法の関連（2）－軍事研究家5人のオフ会を通して－」（呈示発表）自分史研究会第2回学術大会（玉川大学）2015年12月20日
5. 杉原俊二「ソーシャルワークと心理臨床の接点－心理的支援を中心に－」（シンポジウム『学術大会10周年を振り返る－今あらためて「人間科学」とは何であったのか－』）日本人間科学研究会第10回学術大会（聖学院大学）2016年1月10日
6. 杉原俊二「自分史分析（4テーマ分析法）の進め方（3）－支援者としての自己再構築のために－」（呈示発表）日本人間科学研究会第10回学術大会（聖学院大学）2016年1月10日

○教育活動

- (1) 学部：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」（2年生）「相談援助実習指導」（2・3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4年生6名、3年生7名）
- (2) 大学院 人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童福祉論」「課題研究演習」（主指導5名、うち学位取得1名、副指導1名）「データ解析論（7コマ分）」
- (3) 大学院 人間生活学研究科（博士後期課程）：「児童・家族福祉学」「障害者福祉学（30コマ中15コマ分）」「社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（主指導2名、研究員2名、うち学位取得2名、副指導1名）

○委員会活動

- (1) 全学
「人間生活学研究科長」（部局長会議、教育研究審議会、大学院入試実施委員会、自己点検・評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、人事委員会、入学試験委員会、発明委員会、研究倫理審査委員会、大学院研究助成金審査委員会、奨学金返済免除学内選考委員会）
「紀要委員長」「動物実験委員」
- (2) 学部
「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「社会福祉研究倫理審査委員会」

○社会的活動

- (1) 社会活動
高知県社会福祉審議会副会長・地域福祉専門分科会副会長（12月まで）。高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員
- (2) 学会など
日本人間科学研究会 常務理事、KJ法学会 運営委員・編集委員、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）
- (3) 講演など
 1. VHO-net 第10回学習会（ピアカウンセリング研修会）（9月25日、26日）
 2. 香美市教育委員会支援員研修会（7月31日）2時間
 3. 平成27年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論Ⅰ」（8月27日）「児童福祉論Ⅱ」（9月9日）各3時間。
 4. 平成27年度地域型保育事業人材育成研修会（認定研修）「子ども家庭福祉（社会福祉関連）」「子ども家庭福祉（児童福祉関連）」（9月21日：各2時間）、「子どもの安全と環境

（養護原理関連）」（9月27日：4時間）。

総合評価と課題

人間生活学研究科長の2年目となり、その役職に関する業務が次々と増えていった。また、認証評価の審査や2年目となった教員評価などの業務もあり、それらに振り回されることも多かった。また、大学院の授業も多く、学部の仕事に手が回らないことも多かった。学部や大学院の多くの先生や職員の方に助けられて、何とか2年目も終えることができた。

教育に関しては赴任7年目になり、70人定員の第三期生にして男女共学の第二期生である第十五期生を卒業させることができた。授業での工夫として、講義科目については1回ごとのレジュメの配布や、受講生同士（2～4名）討論を入れるなど、昨年度導入した授業の方法を継続した。また、例年通り学生の意見聴取に務めた。実習も事前・事後指導を含めて無事に終わった。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせておこなった。役職についたため会議の時間と回数がこれまで以上に増え、そのしわ寄せがゼミ学生に及んだのではないかと危惧している。卒論や就職指導の時間は確保できたが、十分とは言えない。4年生6名中、5名が福祉施設、1名が一般企業と自分たちが志望していた先へ就職できたことが幸いである。

研究に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤研究(C)「4テーマ分析法を用いた児童虐待防止への支援—『虐待リスク』を抱える保護者支援法—」が採択され研究を続けた。昨年度は十分に調査ができず、今年度もできるだけの時間を使って調査を実施したが、積み残しが出てしまった。来年度は最終年度であり、この遅れを取り戻す必要がある。

委員会等については、研究科長の業務として全学委員会への参加が増えた。その分、学部での負担は減らしてもらっていたが、それでも週単位で見れば学期期間中も授業の時間よりも会議の時間が多いということも時々あった。大学院の改組に伴う規程等の変更や認証評価での指摘に対して早急に対応しなければならないことが多くあり、気が抜けない状況が続いていた。

大学院の教育として、博士前期課程5名、博士後期課程4名（研究員を含む）の学生を指導していた。主指導教員として、初めて二人に博士号を出すことができたことは、大変喜ばしいことであった。また、ゼミ以外の授業も90分授業を博士後期課程で45回分、博士前期課程で22回分おこなった。特に後期は、土・日曜日がつぶれることも多く、先述の調査もおこなうとほとんど休みがとれなかった。研究と並行して児童・家族福祉の実践家として「ワークライフバランス」についての啓蒙をしている立場上、自己警鐘を鳴らすべきであると考えている。

社会的な活動については、地域貢献として高知県社会福祉審議会の副会長、高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員にもなり会議に出席した。さらに難病連から「ピアカウンセリング」のスーパービジョンも担当した。大学内での仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、ここ数年、所属学会以外の学会（研究会）からも研究論文の査読や講演依頼が来るようになった。研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、他大学の博士論文の最終審査に今年度も加わることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

研究科長に再任され、もう2年間つづけることになった。多くの方々のご助力をお願いします。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○ 研究活動

（1）研究ノート

- ・田中きよむ・霜田博史「北欧型福祉システムとヨーロッパ・アジア型福祉システムの比較検討 —スウェーデン・ドイツ・韓国の実情—」高知大学経済学会『高知論叢』第111号、2015年10月（99～156頁）

（2）報告

- ・田中きよむ「高知県内集落活動センターを拠点とする域学共生事業の可能性 —「小さな拠点」を軸とする地域と大学の共生—」『高知県立大学地域連携事業報告集』第2号、2015年11月（49～84頁）
- ・田中きよむ「高知県における介護保険サービスの利用動向と意識 —要介護高齢者・家族中心に—」『ふまにすむす』第27号、2016年3月（20～46頁）

（3）学会報告

- ・田中きよむ「地域福祉（活動）計画と住民主体のまち・むらづくり—高知県内各市町村の取り組み—」四国財政学会第59回研究会（香川大学経済学部交友会館）2015年5月
- ・田中きよむ「北欧型福祉システムとアジア型福祉システムの比較検討」社会政策学会平成27年度中四国部会（高知県立大学永国寺キャンパス）2015年9月
- ・田中きよむ「高齢者の生活保障施策の動向と行財政」日本地方自治学会（明治大学駿河台キャンパス）2015年11月

（4）研究助成（研究代表者）

- ・「限界集落の地域的孤立化を基盤とする要援護者の孤立化問題と生活支援」（文部科学省科学研究費基盤研究（C）一般：平成24～27年度）
- ・「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり—その形成要因の分析と持続モデルの構築—」（文部科学省科学研究費基盤研究（C）一般：平成27～29年度）

○ 教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 公的扶助論
5. 福祉研究演習ⅠD・ⅡD・ⅢB
6. 地域福祉活動ⅠB
7. 社会保障と看護

（共通教育）

1. 社会保障と生活
2. 現代社会論
2. 地域学概論

（2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員、人事委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）、地域教育研究センター地域課題研究部会部会長、COC+ワーキング委員
- ・（大学院）学位審査委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知県地域年金事業運営調整会議 委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知市生活困窮者支援検討部会委員
- ・高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- ・社会福祉法人来島会身体拘束ゼロ委員会委員
- ・社会福祉法人高知福祉会・すずめ福祉会・ファミーユ高知第三者委員

（講演等）

- ・高知県ファイナンシャル・プランナーズ協会講演「高齢者を守る制度環境と地域福祉」（2015年4月）
- ・四万十町地域福祉活動計画推進委員会アドバイザー（2015年5月）
- ・高知市民の大学講師「アベノミクスと年金・医療・介護問題」（2015年5月）
- ・地域連携報告「高知県立大学における『域学共生』に向けた取り組み」（2015年6月）
- ・四国ブロック保育研究集会講師「保育をめぐる情勢と運動の課題」（2015年6月）
- ・高知県介護支援専門員更新研修講師「人格の尊重及び権利擁護」（2015年6月）
- ・高知県社会保障推進協議会講演「アベノミクス型社会保障」（2015年6月）
- ・介護ケア研究会講演「地域再生と支えあいの地域づくり」（2015年6月）
- ・高知県立山田高校講演「地域共生と域学共生に向けた高知県立大学の取り組み」（2015年6月）
- ・高知市一宮地区住民支えあいフォーラム講演「住民同士支えあいのまちづくり」（2015年7月）
- ・高知県母親大会講師「障害者権利条約とこれからの課題」（2015年7月）
- ・高知県東部地区民生委員児童委員協議会講演「生活困窮者自立制度と民生委員の役割」（2015年7月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・社会福祉法人高知福社会研修講師「障害者の人格の尊重及び権利擁護、虐待予防」（2015年7月）
- ・高知県中央東地区民生委員児童委員協議会講演「住民主体の健康な地域づくり—民生委員児童委員の役割—」（2015年7月）
- ・ココプラ講演「地域共生と域学共生のまち・むらづくり」（2015年7月）
- ・第45回高知県リハビリテーション研究会 活動・実践発表②座長（2015年7月）
- ・社会福祉法人ファミリーユ高知研修講師「障害者の人格の尊重及び権利擁護、虐待予防」（2015年8月）
- ・社会福祉法人来島会園研修講師「障害者の人格の尊重及び権利擁護、虐待予防」（2015年9月）
- ・社会福祉法人高知福社会研修講師「スウェーデンの障害者福祉と自己決定、共生ケア」（2015年9月）
- ・学校法人太平洋学園高校教員研修講師「子どもの貧困と生活支援制度」（2015年10月）
- ・医療法人カメラリア職員研修講師「生活困窮者自立支援制度と支えあいの地域づくり」（2015年10月）
- ・佐川町地域福祉計画みんなでまちづくり委員会アドバイザー（2015年10月）
- ・高知ネットホップ主催生活困窮者支援シンポジウム・コーディネーター（2015年10月）
- ・脳外傷友の会高知主催講習会シンポジウム・コーディネーター（2015年11月）
- ・高知市社会福祉協議会主催市民後見人養成講座講師（2015年11月）
- ・須崎市婦退協主催講演講師「マイナンバー制度について」（2015年11月）
- ・大月町社会福祉大会講演「住民主体の健康な地域づくり—個人の健康と地域の健康—」（2015年11月）
- ・佐川町斗賀野地区講演「いきいきと暮らすための地域福祉について」（2015年12月）
- ・全国クレ・サラ協会主催講演「高齢期を中心とする社会保障と政策課題—年金・医療・介護・生活困窮者支援—」（2015年11月）
- ・全国障害者問題研究会四国ブロック「障害者問題を考える四国集会」共同研究者（2015年12月）
- ・高知家庭裁判所調査官研修講師「貧困家庭の実情と支援」（2015年12月）
- ・観光ガイド東部ブロック研修講師「大学の地域振興の取り組みについて」（2016年1月）
- ・土佐市生活支援体制整備事業講演会「共に支え合う地域づくり」（2016年1月）
- ・高知県立大学創基70周年記念事業「域学共生～地域と大学で考える～」第2部パネルディスカッション・コーディネーター（2016年1月）
- ・高知県社会就労センター研修講師「障害者の人権と海外の福祉事情」（2016年2月）
- ・憲法25条の会主催講演会「高齢期を中心とする社会保障と政策課題・地域課題」（2016年2月）
- ・四万十町地域福祉講演会「住民主体の共に支え合う地域づくり」（2016年2月）
- ・高知ネットホップ主催シンポジウム「子どもの貧困と学習支援・居場所づくり」コーディネーター（2016年2月）
- ・ワーカーズコープ「全国よい仕事研究交流集会2016」分散会②コメンテーター（2016年2月）
- ・第5回地域活性化フォーラム第1部基調講演「集落活動センターと地域づくり」・第2部パネルディスカッション・コーディネーター（2016年3月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・大月町社会福祉協議会主催地域福祉シンポジウム・コーディネーター（2016年3月）
- ・高知県社会福祉協議会主催第3回地域支援実践者交流会 審査員（2016年3月）
- ・平成27年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 基調講演「住んでよかった・住んでみたい地域づくりー住民主体と域学共生の地域づくりー」（2016年3月）

○総合評価と課題

- ・研究面では、県内・国外の地域福祉システム・地域づくりに関する研究をとりまとめた。2016年度は、集落活動センターなどの「小さな拠点」を軸とする地域支援・地域づくりに焦点をあてた調査研究を体系化するなど、質的充実に努めたい。
- ・教育面では、講義に関しては、社会保障論や公的扶助論、福祉行財政と福祉計画など、国家資格試験関連授業ということもあるせいか、学生の受講態度はまじめである。ただ、それらの科目に関する基礎知識や理解力、応用力は、学期末試験の成績評価による限り、必ずしも十分とは言えず（とくに低学年）、わかりやすい授業内容に向けた一層の工夫と、よりきめ細やかな理解度評価が必要であると考えている。共通教育科目や他学部専門科目に関しては、受講ニーズや関心を十分に把握し切れていない面もあり、その把握をふまえた授業改善が必要であると考えている。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実問題に応えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させて深め、卒論作成ができるような指導を心がけてきた。共同研究の場合、学生相互間の調整に苦労している様子もうかがえる。2016年度4回生も共同研究の意向が一部に見られることから、学生相互間の問題意識の共有化と調整に配慮した指導を工夫する必要がある。

- ・社会的活動は、今年度も社会保障・社会福祉・地域福祉・地域づくりに関連して社会福祉法人等、社会福祉協議会、市町村、住民組織、市民活動団体等との協力関係を持たせていただいたが、とくに学生が地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題や地域の固有価値に向き合ってもらえるような関係づくりを意識的に進めた。今後、地域と大学の「域学共生」を進める教育改革、地域教育研究センター地域課題研究部会の地域連携事業、学生による主体的な「立志社中」等の地域活動、自治体と大学の包括協定などの動向も視野に入れながら、学生と共に積極的な地域アプローチを進め、持続的な地域福祉・地域づくりの形成に協力していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）論文（2件）

・ Sakiko Kanbara, Hyeon-ju Lee, Roger Nlandu Ngatu, Sayumi Nojima, Kimiko Nagasawa, Satoru Yamada, 2015, Steps to Eliminating Health Information Shortfall for Foreign Residents in Japan, Health Science Journal, 10(2),1-5.

・ 神原咲子, Hyeon Ju Lee, 長澤紀美子, 山田寛, 2015, Steps to Eliminating Information Shortfall to Foreign Residents on Disaster: A Consideration from Human Science,信学技報（一般社団法人電子情報通信学会）IEICE Technical Report, IA2015-40(2015-11), 17-22.

（2）学会発表（1件）

・ 長澤 紀美子 「ケアのアウトカム評価指標ASCOTの意義とその適用をめぐる課題」
社会政策学会中四国部会 2015年9月13日（日）（於：高知県立大学永国寺キャンパス）

（3）競争的資金等の獲得状況（2件）

・ 科学研究費補助金 基盤（C）（課題番号：26502010）「ケイパビリティ概念に基づく認知症高齢者ケアのアウトカム評価尺度の開発」（平成26年度～平成28年度）（研究代表者）

・ 科学研究費補助金 基盤（B）（課題番号：15H03427）「福祉・介護サービスの市場化とガバナンスの変容に関する国際比較研究」（平成27年度～平成30年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一教授）分担研究者

（4）資料（1件）

・ 長澤紀美子, 神原咲子, Hyeon Ju Lee, 「多言語減災プロジェクト in 高知(Multi-lingual Disaster Mitigation Project in Kochi), 公益財団法人高知県国際交流協会機関誌 WINDOW, 2015 Autumn No.63.p.7. <http://www.kochi-kia.or.jp/organ/window/windowno63.pdf>

○教育活動

（1）学部

「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「国際福祉論」「女性福祉論」
「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」「相談援助演習Ⅱ」
卒業研究指導：「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」（受講者3名）

「福祉研究演習Ⅲ」受講者6名

○サークル顧問：いけとべ！、中国語サークル

（2）大学院人間生活学研究科（博士前期課程）

・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）／「国際福祉演習」「課題研究演習」
・研究指導：正指導教員としてM2生2名、副指導教員として5名（M1生1名、M2生4名）を担当した。

（3）大学院人間生活学研究科（博士後期課程）

・研究指導：副指導教員として5名（D2生1名 D3生4名）を担当した。

○委員会活動

- 【全学】国際交流委員長・（大学院人間生活学研究科選出）国際交流委員、
（社会福祉学部選出）全学FD委員／高知県立大学創基70周年記念事業委員会
委員／（同）創基70周年記念誌専門委員会委員
- ほか 【学部】社会福祉研究倫理審査委員長，学部防災WG学部委員
【大学院】（人間生活学研究科博士後期課程）学務委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知市行政改革推進委員
- ・高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員

（2）学会

- ・社会政策学会春季企画委員（保健医療福祉部会選出）

（3）講演等

- ・社会福祉学部（健康長寿センター事業）リカレント教育講座 講師
「石巻から、未災地高知へ：『繋ぐ』災害ソーシャルワークの実践と教育に向けて」
（MSW岡村翠氏・井上健朗講師と共に）11月22日

○総合評価と今後の課題

1. 教育活動について

- ・学部の授業では、毎回リアクション・ペーパーを配布し、次週に学生のコメントを整理して提示し、個々の意見や質問へのフィードバックを行っている。また事前・事後学習のためのワークシートを配布し、次週に提出させ評価の対象としている。後期の授業では、SPOD研修で学んだアクティブ・ラーニングの一方式である「ジグソー学習法」を導入したところ、学生の理解度や満足度の向上がみられた。双方向的な、かつ学生が自主的に取り組む授業に向けて、より工夫を重ねたい。／大学院修士課程社会人に対する研究手法や文章表現法の指導については試行錯誤の段階である。

2. 研究活動について

- ・科研費の分担研究が始まり、研究会での意見交換から多くの示唆を得ることができた。一方、自身が代表である科研費の進捗は十分でなく、計画的に進めていく必要がある。また神原准教授や李講師との災害時の外国人支援に関わる研究は、留学生を災害から守る国際交流委員会の使命と関連して継続していきたい。

3. 学内業務について

- ・全学国際交流委員長として、学部選出国際交流委員（福間講師）や学年担当教員と共に、池デイでのエルムズ大学研修生と社会福祉学部生との交流や、私費外国人枠留学生に対する支援を行った。また加藤助教が引率した「タイ国際ソーシャルワーク研修」に同行し、タイのウボンラーチャターニー大学と本学との協定(MOU)締結について協議した。
- ・FD委員として、学部懇談会の場を活用し、研究・教育面の学部FD研修会を年7回実施した。
- ・社会福祉研究倫理審査委員長として、研究倫理教育の（専任教員・大学院生への）義務化に伴う書式の改訂を行った。

丸山 裕子

Hiroko MARUYAMA

○研究活動

1 研究会参加

エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

2 論文等

なし

3 競争的資金の獲得

(1) 科学研究費補助金（基盤研究（B）、課題番号 15H03431、平成 27-30 年度）

研究代表者：丸山 裕子

研究課題名「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」

(2) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究、課題番号 24653152、平成 24-26 年度、期間延長）

研究代表者：丸山裕子

研究課題名：「ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの構成要素と形成過程に関する基礎的研究」

(3) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究、課題番号 25590132、平成 25-27 年度）

研究代表者：中村佐織

研究課題名：「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの検討」
研究分担者

○教育活動

（学部）

- ・精神保健学（オムニバス）
- ・福祉研究法
- ・実践記録法
- ・スーパービジョン
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習

（大学院）

- ・精神科ソーシャルワーク論

○委員会活動

1 学部

- ・社会福祉実習委員長
- ・紀要委員

- ・ 学生委員（第 16 期生学年担当）

- 2 大学院
- ・ 人権委員

○社会的活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

○総合評価及び今後の課題

着任 2 年めである本年度は、精神・社会福祉コースの担当教員として、新カリキュラム対応の演習・実習指導関連授業や実習巡回や帰校日指導などの対応や準備に追われた 1 年であった。精神保健福祉士の新カリキュラムでは、医療機関と事業所等の 2 ヶ所実習を実施することが規定されたことに伴い、実習巡回の日時や帰校日の調整などが懸念されたが、初年度は無事終了することができ、実習委員長としても胸をなでおろした。特に、新カリキュラムでは、現場実習をはさんで精神保健福祉援助演習を開講することとされ、コース担当教員との協働のもと、演習・実習科目の構成とともに「実践力の高い精神医学ソーシャルワーカー」の育成を目標に精神・社会福祉士コースの教育カリキュラムの体系化についても検討を加えた。

他の授業においても、学生の実習体験を素材にしたグループ学習やDVDなどの視覚教材の活用など、わかりやすい授業というよりは「学生が参加し、主体的に考えてもらうための素材を提供する授業」を常にこころがけているつもりである。

研究活動については、上述したように精神・社会福祉コースの授業準備が最優先の 1 年であり、昨年度に続き、足踏み状態である。期間延長を申請した科学研究費（挑戦的萌芽）「ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの構成要素と形成過程に関する基礎的研究」に優先して取り組んだ。

幸いにも、本年度採択になった科学研究費補助金（基盤B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」については、ツール作成に関して、思いがけない事態が発生し、次に進めない状況である。次年度への繰越し申請を行い、研究を早急に次の段階へと進展させたいと願っている。

また、精神・社会福祉コースの教育カリキュラムの検討を進める中で、教育過程へのピアの視点の導入について多様な方法の開発と体系化について着想を得、科研費を申請した。

いずれの研究も教育と密接に結びついた内容であり、次年度は教育活動とともに研究活動にも、力を傾注したい。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1）論文

- ・宮上多加子・田中眞希(2016)准看護師養成校における社会人学生の仕事に対する思い—介護職経験者の学習プロセスの分析から—『高知県立大学紀要社会福祉学部編』65, 1-12.

（2）学会発表

- ・黒田しづえ・宮上多加子・古屋央枝・ほか：看護現場における KOMI 記録システム継続研修による受講者の変化，ナイチンゲール KOMI ケア学会第 6 回学術集会（千葉），2015 年 6 月.
- ・河内康文・宮上多加子・田中眞希：介護福祉士としての職業経験と仕事の信念—経験学習論に基づく分析—，日本社会福祉学会中止ブロック第 47 回大会（愛媛），2015 年 7 月.
- ・田中眞希・宮上多加子・河内康文：専門職養成教育を通じた社会人学生の仕事への「思い」の変化—介護福祉士養成校と准看護師養成校との比較—，第 23 回日本介護福祉学会（金沢），2015 年 9 月.

○教育活動

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース講義科目の学年配当変更に伴い，H27 年度は 2 回生（前期）および 1 回生（後期）の授業を担当した。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と，事例を用いた介護過程の概要について講義した。教材は，介護福祉コース教員と学生が協同で制作したイラスト入り事例を用いた。

（2）「こころとからだのしくみⅡ」

介護福祉コース講義科目の学年配当変更に伴い，H27 年度は 1 回生と 2 回生の合同授業を担当した。「往復記録」用紙を使用し，授業終了時に学生が感想や質問等を記入して，次回授業時に質問に答える方法を採用した。

（3）「精神保健学Ⅰ」

精神福祉コースの授業であるが、母子および高齢者の精神保健に関する内容について、オムニバスで 4 コマ担当した。

（4）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ」

3 回生のゼミ生は 7 名であった。授業では研究に関する基礎的な内容について取り上げた。また、3 月には四万十市の訪問介護事業所の職員研修に参加し，学生が実習で担当した事例について KOMI 記録システムを用いて発表した。ゼミの活動内容については，例年通りゼミ記録として冊子にまとめた。

[大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

（1）「介護福祉演習」

3 日間（各 5 コマ）にわたる演習であったため，介護福祉に関係した理論を解説した

教育研究活動報告書（宮上 多加子）

後、介護過程に活用できるツールとして KOMI 記録システムについて取り上げた。その後、院生が作成した事例を用いて課題を検討した。

（2）論文指導

正指導教員としてM1生2名、M2生2名、副指導教員としてM2生1名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。研究生は3名受け入れ、大学院ゼミにおいて研究指導を行った。

[大学院（博士後期課程）]

（1）論文指導

正指導教員として院生3名、副指導教員として院生6名を担当した。遠隔地の院生は大学院ゼミへの参加が困難であったため、スカイプを活用して大学院ゼミに参加できる体制を整えた。

○委員会活動

[全学]

社会福祉学部長（部局長会議／教育研究審議会／入学試験委員会／研究倫理審査委員会／自己点検評価運営委員会／非常勤講師審査委員会）

[学部]

学部総務・予算委員会／学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

学務委員

○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員

日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

高知県社会福祉審議会委員

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動

昨年から活用している「往復記録」用紙を用いて、質問や感想に対する回答やコメントを各講義の開始時に返すようにした。この方法は、理解不十分だと思われる内容の確認や、各学生の記録を継続的に見ることで学習状況を把握に有効だと思われる。

また、教材開発に関しては、「介護過程」で使用する介護事例について、介護コース教員、介護コース卒業生、学部学生等の協力を得て、イラスト入りの3事例と介護過程をまとめた「KOMI記録システムを活用した介護過程展開のための事例集」を作成した。学生や教職員等には、親しみやすく分かりやすいと好評であり、今後は学部授業や研修会等で活用したい。

（2）研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「人をケアする準専門職の経験による学びと『仕事の信念』に関する研究」(研究期間：平成26～28年度)に取り組んだ。介護コース教員2名との共同研究で行っており、平成27年度は、准看護師資格取得後に専門課程に進学した看護学生と、福祉施設等に勤務する准看護師を対象にインタビューを実施した。研究成果は研究紀要や学会での口頭発表として公表した。

（3）学内業務

平成 27 年度は、大学基準協会による高知県立大学の外部評価があった。受審準備の様々な作業や事後の評価を通して、学部としての課題が明確になったと思う。認証評価で指摘されたカリキュラムポリシーの内容については学部教務委員会で修正案を検討することとし、高く評価された学生への丁寧な教育や教員の研究レベルについては、これを維持向上させていく必要がある。

また、従前からの課題であった学部入試広報について、入試関係広報WGを組織し、県内高等学校への訪問とその後の対策を検討した。一連の検討の中で、県の地域医療介護総合確保基金事業に学部から提案を出し、「キャリア教育推進事業費」としての補助金が下りる見通しとなった。

その他、障害をもつ学生や留学生への支援の充実、また国際交流の活性化のために国外の大学と協定を結ぶことなど、具体化に向けて動きだした事案もあり、次年度以降の成果が期待できる。

後藤 由美子

Yumiko GOTOH

○研究活動

（1）論文

後藤由美子（2015）「外国人生活支援職の介護施設就労の現状と課題」地域ケアリンク
7, vol117 No8, 66-73

（2）学会発表

なし

（3）著書

黒田健二・清水弥生・佐瀬美恵子編著『高齢者福祉概説』（第5版）明石書店、
分担執筆

○教育活動

[学部担当科目]

1. 介護の基本Ⅱ
2. 福祉研究演習Ⅲ
3. 認知症の理解Ⅰ
4. 認知症の理解Ⅱ（前期、後期）
5. 発達と老化の理解Ⅰ
6. 地域福祉活動Ⅰ
9. 介護実習Ⅰ
10. 介護実習Ⅱ
11. 介護実習Ⅱ②

[他学部]

1. 教職課程「介護等体験」事前学習

○委員会活動

[全学]

- ・産官学研究部会員
- ・キャリア支援副部長
- ・入試監査副委員長
- ・学外連携災害対応部会員長

[学部]

- ・実習委員

○社会的活動

- ・高知県介護福祉士会監事
- ・日本認知症ケア学会代議員

○総合評価及び今後の課題

(1) 教育活動

今年度は、「福祉研究演習Ⅲ」、「地域福祉活動」及び「介護実習」以外は2回生が対象の授業でした。自主的な学習となるように関心のある話題を学生から発表の場を設けたり、「認知症の理解」では、最新の現状を取り入れた授業となるよう講義のほか映像を活用しました。認知症の人をより理解するには、介護実習の体験を踏まえて映像を用いることで具体的な支援を理解できるのではないと考えました。

今年度のキャリア支援部会の教育活動では、各学年担当の教員と連携し、1回生を対象として医療分野と地域福祉分野の現場職員による福祉の仕事について教育の機会を設定し実施しました。いずれも卒業後の就労イメージが明確になり高い評価を得ることができました。また、2～3回生を対象に相談援助実習と関連付けて各分野の専門職をゲストスピーカーとし、直接学生と話し合う機会を設けました。4回生及び卒業生へは、国家資格取得のための支援を実施しました。今後も学生のニーズを把握し、既卒者を含め具体的なキャリア支援についての検討が必要であると思われれます。

(2) その他

介護現場の職員による事例研究活動に関わりました。卒業研究と同様にチームでテーマを設定し取り組まれていましたが、介護現場に反映できるように展開していく指導は学生とは異なり、より実践的なものでした。養成機関による基本的な教育を現場でどのように活用していくのが重要です。今後も介護福祉に関する課題を中心に介護福祉人材の育成に参画し、地域社会に貢献できるよう努力していきたいと思えます。

○研究活動

（1）学術論文

- ・岩崎香、鈴木孝典、大谷京子、大塚淳子、木下了丞、田崎琢二、竹中秀彦、肥田裕久、松本すみ子、宮本めぐみ「精神科医療機関における精神保健福祉士の業務実態に関する研究」『平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業(精神障害分野)分担研究報告書』 2015.5、pp.19-49.

（2）著書

- ・鈴木孝典「社会復帰 2-地域定着支援」日本精神保健福祉士養成校協会 編『新・精神保健福祉士養成講座 8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）（第 2 版）』中央法規出版、2016.2、pp.272-276.
- ・鈴木孝典「社会復帰 2-地域定着支援」日本精神保健福祉士養成校協会 編『新・精神保健福祉士養成講座 8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）（第 2 版）教員指導用ガイド』中央法規出版、2016.2、pp.118-119.

（3）学会発表等

- ・鈴木孝典、岩崎香、大塚淳子、松本すみ子、大谷京子、松浦智和、石田賢哉、越智あゆみ、住友雄資、石川到覚「精神科医療機関における精神保健福祉士の配置と長期入院患者の動向との関連」一般社団法人日本精神保健福祉学会第 4 回学術研究集会（東京）、2015 年 6 月 19 日
- ・岩崎香、鈴木孝典、大塚淳子、松本すみ子、大谷京子、石川到覚「医療機関に勤務する精神保健福祉士を対象とした研修プログラムの開発-多職種連携を中心に」一般社団法人日本精神保健福祉学会第 4 回学術研究集会（東京）、2015 年 6 月 19 日

（4）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤(C)、課題番号:25380758、平成 25 年度-27 年度）
研究代表者：鈴木孝典
研究課題名：「精神障害者グループホーム選択指標の開発的研究」

○教育活動

（1）講義

[学部]

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 「精神保健福祉論」 | 7. 「精神保健福祉援助実習Ⅰ」 |
| 2. 「精神保健福祉論Ⅰ」 | 8. 「精神保健福祉援助実習Ⅱ」 |
| 3. 「精神保健学」 | 9. 「福祉研究演習Ⅰ」 |
| 4. 「精神保健福祉援助演習」 | 10. 「福祉研究演習Ⅱ」 |
| 5. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」 | 11. 「福祉研究演習Ⅲ」 |
| 6. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」 | |

[大学院]

1. 「研究方法論Ⅱ」
2. 「障害者福祉論」

(2) 講義以外

・実習支援

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

○委員会活動等

(1) 学部

1. 精神・社会福祉コース 主担当
2. 実習委員
3. 入試委員
4. 情報処理委員
5. 入試広報ワーキンググループ 主担当

(2) 大学院

1. 人間生活学研究科前期課程学務委員

(3) 全学

1. 学部入試実施委員（副委員長）
2. 総合情報センター情報処理部会員
3. 高大接続連携を軸とする大学改革プロジェクト委員会 委員
4. 高知県立大学・高知短期大学情報セキュリティ委員会 委員

○社会的活動

(1) 委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 副会長（役員:2008年4月～、副会長:2014年5月～）
2. 高知県精神保健福祉士協会 新人研修委員会 委員（2008年4月～）
3. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
4. 高知県自立支援協議会 副会長（2009年2月～、副会長 2014年7月～）
5. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
6. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
7. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
8. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～）
9. 高知市自立支援協議会 定例会 委員（2014年4月～）
10. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
11. 社会福祉法人ファミーユ高知 評議員（2015年4月～）
12. 高知県社会福祉協議会「退職前世代の生きがい研究」検討会 委員（2013年7月～）
13. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 企画委員（2013年4月～）
14. 精神保健福祉士試験委員（2014年4月～）
15. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 事務局次長（2012年6月～）
16. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015年4月～）
17. 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 機関誌査読委員（2015年4月～）
18. 日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会 実行委員（2015年4月～）

(2) 講演等

1. (公)日本訪問看護協会「精神障がい者の在宅看護セミナー」講師（7月4日(愛媛)）
2. 平成27年度高知県相談支援従事者研修会「障害者ケアマネジメント概論」講師（7月14日）
3. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（8月4日(東京)）

(3) 学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、教育内容の評価と改善を実施した。具体的には、昨年度の教育内容の評価を踏まえて、教材や授業の構成を変更した。くわえて、リアクシオンペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による授業評価ポートフォリオを作成し、教育内容の課題抽出に努めた。また、精神・社会福祉コースの教員と協働し、「実習の動機と課題」、及び「実習計画書」を学生が相互にピア・レビューし、配属実習に向けた動機と課題の整理及び学習計画の整理を主体的に進めるための教育ツールとプログラムを実施するとともに、その改善に努めた。

次年度は、今年度に引き続き、授業評価ポートフォリオを活用し、PDCA サイクルによる教育内容の質の管理に努めるとともに、他の精神保健福祉士養成校の教員との協働により、効果的な教育ツール、プログラムの開発研究にも注力したい。

（２）研究活動について

今年度は、昨年度に引き続き、科学研究費補助金（基盤(C)）に基づく研究として、グループホームの選択を支援する指標開発に向けた研究を展開した。また、科学研究費補助の最後の年度となることから、グループホーム選択指標の試案をまとめ、フィールドテストを実施した。しかし、研究成果を広く公表することができなかつたため、次年度の課題としたい。くわえて、新たな科学研究費補助金（基盤(C)）の獲得に向けた準備を進め、その申請をおこなった。

さらに、ピアレビューを活用したソーシャルワーク教育プログラムの開発に向けた基礎的研究のための科学研究費補助金（挑戦的萌芽）の獲得に向け、丸山裕子教授の主導により準備を進めた。

（３）学内業務及び社会貢献活動について

入試実施委員として、鳩間講師、福岡講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。また、今年度は、入試広報ワーキンググループの主担当として、学部教員と協働しながら、高校訪問を実施し、入試広報とあわせて高校の進路指導の実態把握や出願者の動向に係る情報収集をおこなった。入試の志願状況について、昨年度と比較し、志願者数の増加が見られたことから、高校訪問による広報の成果が一定程度あったものと推察する。次年度は、出前講座や県の基金による講座の展開とあわせて効果的な入試広報を進めていきたい。

つぎに、社会貢献活動では、昨年度から引き続き、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協議会に委員の立場で参加し、障害者施策の評価に携わるとともに、障害者に係る行政計画の評価に参画した。くわえて、昨年度と同様に、高知県自立支援協議会、及び高知市自立支援協議会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に係る課題に取り組んだ。次年度は、中央東障害保健福祉圏域において新たにスタートした、「社会資源の上手な使い方ワークショップ」に研究者の立場で参加し、圏域を基盤とした障害福祉従事者の研修体系の構築に、アクションリサーチの手法に基づくフィールドワークを通じて寄与したい。

さらに、今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働省の補助金事業である精神保健福祉実習演習担当教員講習会に企画委員及び講師の立場に関わり、実習演習担当教員の育成に寄与するとともに、教員を受講生とし講義を行うことで、自らの教育技能について他学の教員から評価を受ける機会を得た。次年度も引き続き、同講習会に参画し、受講生の評価を参考に、教育技能の更なる研鑽に励みたい。

西 内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 学術論文

1) 論説

西内章（2016）「ICTを活用したソーシャルワークにおける「情報」の位置づけと実践課題」高知県立大学紀要社会福祉学部編，65，83－93.

2) 論文

井上健朗・鈴木裕介・西内章（2015）「医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの今日的課題」高知県医療事業，54，47－54.

3) 報告

西内章他（2016）「香美市における居住支援の実践課題」香美市自立支援協議会居住支援部会，1－8.

2. 学会発表

1) 御前由美子・西内章他「独立型社会福祉士実践のためのスーパービジョン支援ツール」日本社会福祉学会（久留米大学 2015年9月）.

3. 科研費

1) **（基盤研究(C)）** 西内章『ソーシャルワークにおけるICT活用モデルの構築』

※2014～2016年度

2) **（基盤研究(B) 分担研究）** 丸山裕子・西内章他『ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究』

※2015～2017年度

3) **（基盤研究(C)・分担研究）** 御前由美子・西内章他『独立型社会福祉士の特性と現状にもとづくより効果的なスーパービジョン方法の開発』

※2014～2016年度

4. 研究会

1) ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授、関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った.

○ 教育活動

[共通教育科目]

- ①「専門職連携概論」 ②「チーム形成論」

[学部専門科目]

- ①「事例研究法」
②「チームアプローチ」
③「ケアプラン策定法」
④「相談援助の基盤と専門職」
⑤「相談援助演習Ⅰ」
⑥「相談援助演習」
⑦「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」
⑧「相談援助実習」

教育研究活動報告書（西内 章）

⑨「福祉研究演習Ⅰ」

⑩「福祉研究演習Ⅱ」

⑪「福祉研究演習Ⅲ」

[大学院人間生活学研究科]

①ソーシャルワーク論

②研究方法論Ⅱ

③課題研究演習

○委員会活動

①学部教務委員長

②学部研究倫理審査委員

③学部人権委員

④自己点検評価委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・津野町地域包括支援センター・津野町地域密着型サービス運営協議会委員
- ・香美市自立支援協議会居住支援部会アドバイザー

[研修会講師・講演等]

- ・2015年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」，「社会福祉援助演習」担当（8月28日）
- ・2015年度高知県相談支援従事者研修講師「面接技術・対人支援技術」担当（8月7日，9月11日）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修講師「保健医療福祉をめぐる動向，諸制度の変遷」（9月27日）
- ・平成27年度総合相談・生活相談研修会講師「総合相談・生活支援」担当（11月27日）
- ・平成27年度市町村社会福祉協議会レベルアップ研修・ブロック別スタッフ研修講師（12月7日，12月10日，12月11日）
- ・平成27年度市町村社会福祉協議会地域支援事例研究会（安芸ブロック12月17日，中央西ブロック12月24日，幡多ブロック1月15日，中央東ブロック1月21日，高幡ブロック1月28日）
- ・三原村要保護対策地域協議会研修講師「要対協の関係機関における連携の仕方について」（12月18日）
- ・2015年度高知県生活困窮者自立相談支援研修会講師「自立相談実施にあたっての支援対象者への接し方について」（2月5日）

○総合評価と課題

1. 教育活動

本年度も共通教養科目として「専門職連携概論」を永国寺キャンパスにて，看護学部山中福子講師，健康栄養学部廣内智子講師とともにIPW（inter-professional work）の基礎的理解を中心に授業を実施した。また，社会福祉士指定科目である「相談援助基盤と専門職」については，社会福祉学部の西梅幸治准教授，加藤由衣助教とともに実施した。「事例研究法」，「チームアプローチ」，「ケアプラン策定法」は，授業目標の具体的な提示

教育研究活動報告書（西内 章）

を授業内でくり返し行い，科目の関連性を理解してもらうことを重視した．次年度も引き続き，リアクションペーパーの内容を検討し，継続的な評価・授業内容の改善を行いたい．ゼミでは、4回生6名の卒業論文指導を行った．

2. 研究活動

研究活動では、2014年度から継続して科研費による研究を行っている．本年度は、ICTを活用したソーシャルワークを展開するモデルを構築するために、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発の基礎となる文献研究に取り組み、大学紀要に成果をまとめた．

3. 委員会活動

委員会活動では、学部教務委員長として、認証評価、カリキュラム移行、履修モデルの作成などについて教務委員会のメンバーとともに日々取り組んだ．人権委員としては、授業に関するアンケートをもとに、学部研修を開催した．

4. 社会的活動

社会的活動では、高知県内における生活困窮者、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などの分野においてソーシャルワーク研修を行ったり、ソーシャルワーカーの方々が直面している課題について協議することができ、事例を通して自らも学ぶ機会となった．

5. 今後の課題

教育活動については、教材研究などに取り組み、さらなる授業改善に努めたい．委員会活動や研究活動にも継続的かつ積極的に取り組んでいきたい．これらの成果を教育活動に還元できるように尽力したいと考えている．

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

- (1) 研究会参加
 - 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- (2) 研究資金の導入
 - 1) 基盤研究（C）「ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践方法とツール開発の研究」（平成 26～28 年度）
 - 2) 基盤研究（B）「分担研究：ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成 27～29 年度）
- (3) 学会参加と報告
日本ソーシャルワーク学会、日本社会福祉学会への参加
 - 1) 加藤由衣・西梅幸治・中村佐織（2015）「地域包括支援センターにおけるアセスメント方法の構築－エコシステム視座からの指標の検討－」第 32 回日本ソーシャルワーク学会（日本社会事業大学：東京）
- (4) 論文等
論文
 - 1) 西梅幸治（2016）「ジェネラル・ソーシャルワークにおけるエンパワメントの位置」『高知県立大学紀要』65, 13-29.

○教育活動

- (1) 担当科目
「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の理論と方法Ⅳ」「相談援助の基盤と専門職」
「福祉研究演習ⅠJ」 「福祉研究演習ⅡJ」 「福祉研究演習ⅢI」
「相談援助演習」 「相談援助演習Ⅰ」 「相談援助演習Ⅱ」
「相談援助実習指導Ⅰ」 「相談援助実習指導Ⅱ」 「相談援助実習指導」
「相談援助実習」
- (2) クラブ活動
・ グローカルクラブ顧問 ・ 手話サークル顧問

○委員会活動

全 学

- ・ 高大接続ワーキンググループ ・ 健康管理センター委員会

学 部

- ・ 実習委員会（社士主担当） ・ 国試対策WG（長）
- ・ 総務委員会 ・ 日本社会福祉士養成校協会担当

○社会的活動

- ・ 高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・ 日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロック 副運営委員長

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・高校生のための公開講座 講師「幸せに寄り添うソーシャルワーカーの仕事」（2015年8月1日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2015年7月11日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」（2015年9月9日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業新任職員研修Ⅱ 講師「隣保館における相談支援の基礎を考えるーソーシャルワークの視点からー」（2015年10月2日）
- ・相談援助実習指導者講習会 講師「相談援助実習指導概論」（2016年1月23日）
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク学習会」（4月～3月：計7回）
- ・学部リカレント研究会事業「10期生リカレント研究会」（2016年2月13日）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが時間を割き、継続的に研究を行った。特に科研費を取得し、ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究を継続的に進めることができた。またアセスメントについて、地域包括支援センターを取り上げ、その指標に関する研究成果を公表することができた。

（2）教育活動について

講義・演習：

授業では、毎回の授業開始時に、前回の復習やシンク・ペア・シェア、ホップ・ステップ・クラスなどの手法を取り入れ、知識の定着を図った。また授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントに応じて、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むことができるような工夫を重ねていきたい。

実習指導：

実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度は積極的にグループスーパービジョンを取り入れ、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、7名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、文章構成とプレゼンテーションの技能が高まるように指導を行い、個々に応じた成果を出すことができた。

（3）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営に、国試対策ワーキンググループ長としては、4回生自らが受験対策を行うための支援システムの整備に少なからず貢献できたと感じている。また高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ボランティアコーディネートについても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、より貢献できるように取り組んでいきたい。

山村 靖彦

Yasuhiko YAMAMURA

○研究活動

1. 書籍監修
 - ・山村靖彦ほか「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2016』メディックメディア、2015. 4、pp.207-239.
2. 書籍概説
 - ・山村靖彦ほか「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士第24-25回国家試験問題解説 2016』メディックメディア、2015. 4、pp.14-16.
3. 書籍執筆
 - ・山村靖彦ほか「社会福祉の実際」「社会福祉の課題」『実践から学ぶ社会福祉』保育出版社、2016. 3、pp.159-162、pp.177-179.
 - ・山村靖彦ほか「これからの地域福祉の方向性と課題」『現代地域福祉論』保育出版社、2016. 3、pp.161-169.
4. 競争的資金の獲得
 - ・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03938、平成27年度-30年度）
研究代表者：山村靖彦（単独）
研究課題名：「社会的孤立の防止に資する社会関係資本の形成と評価：弱いつながりに関する実証的研究」
 - ・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03939、平成27年度-29年度）
研究代表者：田中きよむ
研究分担者：玉里恵美子、水谷利亮、霜田博史、山村靖彦
研究課題名：「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり—その形成要因の分析と持続モデルの構築—」
 - ・平成27年度 高知県立大学地域教育研究センター域学連携事業（事業区分：A、課題番号：15A009）
実施代表者：山村靖彦（単独）
研究課題名：「『地域の継続』を視野に入れた地域づくり活動の展開—佐川町加茂地区、高知市土佐山高川地区、梶原町神在居地区における活動—」

○教育活動

1. 学部担当科目
 - ・地域福祉論Ⅰ
 - ・地域福祉論Ⅱ
 - ・コミュニティソーシャルワーク
 - ・相談援助演習
 - ・相談援助実習
 - ・福祉研究演習Ⅰ
 - ・福祉研究演習Ⅱ
 - ・福祉研究演習Ⅲ
 - ・社会福祉入門演習
 - ・社会福祉基礎演習
 2. 大学院担当科目
 - ・研究方法論Ⅱ
 - ・地域福祉ソーシャルワーク演習
- ※副指導教員としてM1生2名、M2生3名の計7名を担当した。
3. 学生活動

- ・立志社中「活輝創生委員会」顧問

○委員会活動

1. 全学
 - ・COCプラスワーキンググループ
 - ・高大接続改革を軸とする大学改革ワーキンググループ
2. 学部
 - ・総務・予算委員会（委員長）
 - ・防災プロジェクトワーキンググループ
 - ・自己点検評価
 - ・入試広報ワーキンググループ
 - ・卒業生支援ワーキンググループ
 - ・学部長選挙管理委員会
3. 大学院
 - ・入試実施委員

○社会的活動

1. 委員等
 - ・高知市地域福祉計画推進協議会（委員長）
 - ・高知県社会福祉協議会 福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員（委員長）
 - ・南国市地域福祉計画策定委員会（副委員長）
 - ・第14回四国地域福祉セミナーin高知市・第20回こんぴら地域福祉セミナー実行委員（副委員長）
 - ・第14回四国地域福祉セミナーin高知市・第20回こんぴら地域福祉セミナー高知市実行委員（副委員長）
 - ・高知市地域福祉計画推進協議会公募委員選考委員会（副委員長）
 - ・日本地域福祉学会地方委員
 - ・高知市都市再生協議会委員
 - ・南国ネットワーク連絡会委員
 - ・高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修委員
 - ・佐川町加茂地区 加茂の里づくり会アドバイザー（4月－3月 計12回）
 - ・高知市社会福祉協議会「地域支援事例検討会」スーパーバイザー（4月－3月 計12回）
2. 学外非常勤講師
 - ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校「生活保護制度」担当（全15回）
3. 講演等
 - ・「三里のお世話役さん交流会」講演「ひとりじゃないって ステキなことね♪」（5月19日）
 - ・高知県社会福祉大会 座長および講演（11月4日）
 - 趣旨説明講演：「生活困窮者支援と地域協働」
 - 講演：「地域が協働した生活困窮者支援を目指して」
 - ・須崎市社会福祉大会 講演（11月21日）
 - 講演：「現代社会におけるボランティア活動 ― 求められる新しい『つながり』と『豊かさ』―
 - ・高知市城西地区ふれあいサロン研修会講師（12月9日）

教育研究活動報告書（山村 靖彦）

講話：「サロンのすすめ ―ひとりじゃないって、ステキなことね♪―」

- ・福祉教育ブロック別情報交換会アドバイザー（12月21日）
- ・高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修（1月13日、2月3日）
担当内容：
 - ・「生活支援コーディネーターに期待される機能と役割について」
 - ・「高齢者に係る地域アセスメントの手法について」
 - ・「研修第1部の振り返り」
 - ・「高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービスについて」
 - ・「研修の振り返りと全体総括」
- ・南国市生活困窮者自立支援フォーラム アドバイザー（2月27日）
- ・高知県社会福祉協議会 被災者生活支援フォーラム2015 コーディネーター（3月19日）

○総合評価及び今後の課題

教育活動では、例年どおり講義面においては特に、①「資料の作成」と②「視聴覚教材の利用」において工夫を重ねた。資料は毎回A4サイズで概ね4枚用意し、テキストの補足や関連する新聞等の記事、統計等を掲載した。視聴覚教材については、主にテレビのドキュメント番組等を編集し、視聴したあとの解説および学生によるディスカッションを通じて考察を深めた。次年度は上記に加え、③「話し方」について具体的な工夫を凝らしたいと考えている。また、卒論指導では7名を担当した。学生個人の状況に合わせ、きめ細かく指導するように努めたことで、個々の論文の質を高めることができたと思っている。大学院での講義（「研究方法論Ⅱ」、「地域福祉ソーシャルワーク演習」）ならびに副指導教員（5名担当）については、もう少し時間的な余裕をもって準備ができたなら良かったと思う。今後も努力を重ね、大学院教育に寄与していきたい。さらに、本年度も立志社中「活輝」の顧問も担った。「域学共生」の一端を担った意義は大きいと考えるが、何よりも例年に比べ学生の成長が感じとれた年度であったので、そのことが最も嬉しく感じている。

委員会等の活動は全学2つ、学部6つ、大学院1つを担当した。総務・予算委員長としては、特に予算の適切な執行、学部環境の整備に努めた。学部の運営に支障をきたさぬよう配慮してきたつもりであるが、行き届かなかった点多々あった。これらについては、次期委員長が改善してくれるのではないかと思う。また本年度は、全学的な役割として「COCワーキンググループ」と「高大接続改革を軸とする大学改革ワーキンググループ」のメンバーであったが、他の業務との重なりでワーキングに参加できないこともあった。学部および大学院の代表として、全学的な取り組みには積極的に参加していくべきだと考える。

社会的活動については、外部委員や講演等の依頼がかなり増えてきている。大学の一員としてこれらを引き受け還元することで、本学内の活性化にも寄与できるのではないかと思っているが、今後は自身の健康にも留意しつつ活動していきたい。

なお、「教育活動」、「研究活動」、「委員会活動」、「社会活動」等については、それぞれを結びつけて捉え、自身の研究や学部生・院生への還元を意識しながら取り組んでいくことが課題であると考えている。

井上 健朗

Kenro INOUE

○研究活動

1. 論文

- ①井上健朗・鈴木裕介・西内章（2015）「医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの今日的課題」『医療社会事業』高知県医療ソーシャルワーカー協会 Vol. 54, pp47-54-136.
- ②井上健朗・鈴木裕介（2015）「呼吸機能障害とソーシャルワーク/リハビリテーションにおける呼吸器診療」『MEDICAL REHABILITATION』全日本病院出版会 No. 189, pp31-39.
- ③井上健朗（2015）「地域連携・退院支援に役立つソーシャルワーク・スキル」『地域連携 入退院と在宅支援』日総研出版 Vol. 8 No. 5 pp45-50
- ④井上健朗（2015）「コミュニケーション・スキル/地域連携・退院支援に役立つソーシャルワーク・スキル」『地域連携 入退院と在宅支援』日総研出版 Vol. 8 No. 6 pp47-53
- ⑤井上健朗（2016）「ケース・カンファレンス/地域連携・退院支援に役立つソーシャルワーク・スキル」『地域連携 入退院と在宅支援』日総研出版 Vol. 9 No. 1 pp35-40

2. 著書

- ①宇都宮宏子監修 井上健朗『退院支援ガイドブック』学研メディカル秀潤社 p141-164

3. その他

共同研究

- ①「小児慢性疾患患者及びその家族への支援の在り方に関する基礎研究」厚生労働省難治性疾患克服事業（代表 明治学院大学 茨木尚子）
- ②「転院に影響を及ぼす患者の背景要因の分析-ソーシャルワーカーの介入開始から転院までに着目して」第54回自治体病院学会（代表 高知医療センター 川上めぐみ）

○教育活動

1. 学部教育

「社会福祉入門演習」「相談援助演習」「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」
「医療福祉論」「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」「医療保健サービス論」
「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」

2. 他学部

「中山間地域等訪問看護師育成プログラム」（全学事業 寄付講座）

3. 他大学

- 1) 高知学園短期大学 「慢性的な疾患を持つ障害者の生活支援」2015 11月

4. リカレント・一般向け教育

- 1) 「医療と福祉のあいだ」高知県立大学オープンキャンパス公開講座 2015 8月
- 2) 「病院と地域で行う退院支援-退院のしくみ作りとその活用」高知医療センター・高知県立大学健康長寿センター共催 地域医療連携研修会 2015 10月
- 3) 「石巻から未災地高知へ『繋ぐ』災害ソーシャルワークの実践と教育に向けて」高知県立大学健康長寿センター事業社会福祉学部リカレント講座 2015 11月
- 4) 「出前講義 人を支えるコミュニケーション」講師 2015 12月

5. 現任者教育

- 1) 「多職連携で行う退院支援・調整研修」講師 日総研（岡山）2015 5月

教育研究活動報告書（井上 健朗）

- 2) 「医療ソーシャルワーカーが行う難病患者就労支援研修」（兵庫県）2015 7月
- 3) 「福祉連携」『医療福祉連携講習会』講師 医療マネジメント学会（東京）2015 8月
- 4) 「交通事故被害者生活支援教育研修」日本医療社会福祉協会主催（宮城）2015 12月
- 5) 「病院全体で行う退院支援」講師 医療法人おぐら会（高知）2015 11月
- 6) 「香川県医療ソーシャルワーカー協会研修」講師（徳島県）2015 12月

6. FD 研修

- 1) 「ティーチング・ポートフォリオ作成報告会」（高知県立大学）2016 2月
- 2) 「公開授業（保健医療サービス）」（高知県立大学）2016 1月

○委員会活動

- ・健康長寿センター委員 リカレントセミナー・体験型セミナー開催
- ・高知県立大学 高知医療センター連携事業 委員
- ・県立大学・医療センター社会福祉連携部会 12回開催

○社会的活動

1. 委員等

- ①公益法人社団日本医療社会福祉協会 交通事故被害者生活支援教育研修委員
- ②公益法人社団日本医療社会福祉協会 制度本編集委員会 代表委員（編集代表）
- ③高知県立大学健康長寿センター土佐市連携事業地域ケア会議担当メンバー

2. 講演等

- ①「多職種連携を活用する医療ソーシャルワーク」香川県医療社会事業協会平成27年記念講演（香川県）2015 5月
- ②「知っておきたい社会資源」日本ALS協会愛媛県支部（愛媛県）2015 6月
- ③「病院と地域で行う退院支援-退院のしくみ作りとその活用」高知医療センター・高知県立大学健康長寿センター共催 地域医療連携研修会（高知県）2015 10月
- ④健康長寿センター 体感型セミナー・イン安芸市 2015 10月（高知県）
- ⑤「人を支えるコミュニケーション」伊野中学校（高知県）2015 12月

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

1回生の学年担当教員として、学生生活のサポートを行った。学業だけでなく、学生が抱える様々な生活課題と向き合えたことは、得難い経験となった。学生が学びを継続するための支援活動は教員の重要な責務であり、次年度も継続的な学年担当としての活動となる。学生の自律的な活動を旨とする大学教育の中で、個々の学生の支援ニーズを掴むのは容易ではなく、さまざまな指導場面を通して、学びや生活のつまづきを把握する必要があると感じている。教員研修の活動として、昨年のFD研修で作成した「ティーチング・ポートフォリオ」について学内での報告、および公開授業の機会を得た。教歴の浅い者として、今後こうした自身の教授方法などについての研鑽の機会は逃さず活用していくようにしたい。

2. 研究活動について

昨年に続き、高知県内、四国圏域で医療福祉領域のフィールドの探索と研究を主な課題として活動した。本学と連携事業を行う高知医療センターのソーシャルワーク部門との共同研究を行い、「転院に影響を及ぼす患者背景要因-ソーシャルワーカーの介入開始から転院までに着目して」として、第54回自治体病院学会に発表することができた。医療センターとの共同研究作業は今後も推進されるように貢献したい。

交通事故被害者生活支援に関するフィールドについては、引き続き（公益法人社団）日本医療社会福祉協会の「交通事故被害者生活支援プロジェクト」のコアメンバーとして活動した。本プロジェクトでは、医療福祉領域の専門職を対象とした研修事業として、JM00C（日本オープンオンライン教育推進協議会）の提供するEラーニング・フォーマットを活用した研修プログラムを作成中である。次年度ではこの研修プログラムを成果物として報告する予定である。

3. 社会活動について

昨年に引き続き、公益社団法人日本医療社会福祉協会での活動として「交通事故被害者支援」「難病者の就労支援」などのテーマで全国レベルでのソーシャルワーク現任者の教育研修の活動を行った。また四国圏域においては、香川県医療ソーシャルワーカー協会の研修、医療法人おくら会芸西病院の全体研修などソーシャルワーカーが参画したチーム・アプローチや退院支援に関する学びをソーシャルワーカー及び他職種と共に進めることができた。患者・家族会へのサポート活動として、日本ALS協会愛媛県支部勉強会での講師を引き続き行った。また、本学健康長寿センター事業として、安芸市において住民対象の公開講座、土佐市における地域ケア会議に対する支援、高知医療センター地域医療連携室と共同して公開講座を実施した。

河内 康文

Yasufumi KOUCHI

○研究活動

1. 学会発表
- (1) 河内康文・宮上多加子・田中眞希：介護福祉士としての職業経験と仕事の信念—経験学習論に基づく分析—第 47 回日本社会福祉学会中国・四国部会（松山），2015 年 7 月.
- (2) 田中眞希・宮上多加子・河内康文：専門職養成教育を通じた社会人学生の仕事への「思い」の変化—介護福祉士養成校と准看護師養成校との比較—，第 23 回介護福祉学会大会（金沢），2015 年 9 月.

○教育活動

1. 介護の基本 I
2. コミュニケーション技術
3. 介護総合演習 I
4. 介護総合演習 II
5. 介護実習 I
6. 介護実習 II
7. 発達と老化の理解 I
8. 障害の理解 II
9. 福祉研究演習 I
10. 福祉研究演習 II

○委員会活動

1. 全学
- (1) 総合情報センター運営委員（図書部会）
- (2) 健康長寿センター運営委員

2. 学部
- (1) 総務・予算委員
- (2) 広報委員
- (3) 高知県立大学社会福祉学部長選挙管理委員

○社会的活動

1. 委員等
- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (3) 高知県社会福祉協議会 第 4 回コレスパ in 高知 審査委員
- (4) 外国人介護福祉士候補者学習支援事業 作業部会委員

2. 講演等

- (1) 外国人介護福祉士候補者学習支援事業集合研修講師（2015年6月-2016年1月計11日）
- (2) 高知県立安芸高等学校 出前講座 講師（2015年10月20日）
- (3) 高知県立大学社会福祉学部リカレント講座 講師（2015年10月31日）
- (4) 健康長寿センター体験型セミナーIN安芸 体験講座(2015年11月8日)
- (5) 高知県社会福祉協議会 人材育成推進セミナー 講師（2016年3月9日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

担当科目については、タブレット端末を用いて、視覚的にわかりやすい授業になるように心がけた。また、ゲストスピーカーによる講義や実際に福祉現場を体験して、理論と実際が結びつきやすいように意識して教育活動に取り組んだ。これら教育活動の一部は、全学を対象にしたFD委員会主催の研修会として授業公開をした。

今後の課題は、わかりやすさを重視したため、何に対して、どのように考え、何を掘り下げ、どのように想像/創造するのかという視点が不十分であったことである。課題の解決に向けて、話題提供、時間構成、教育内容の関係性を考えながら、教育活動をしていきたい。

2. 研究活動について

本年度は、外国人介護福祉士候補者が介護現場でどのような経験をしていたり、他者とどのようにかかわっていたりしているのかという観点から、量的調査と質的調査を実施した。また、科学研究費助成事業の研究分担者として、社会人経験がある介護福祉士を対象とした調査研究を学会発表した。

上記の調査研究や学会発表の内容は、論文としてまとめて投稿中である。次年度は、本年度にまとめられなかった調査結果を論文にして投稿していく。また、外国人「介護福祉士候補者」が「介護福祉士」になってからの経験にも着目しながら、継続的に研究活動を進めていきたいと考えている。

3. 社会活動について

外国人介護福祉士候補者の研究活動と連動して、外国人介護福祉士候補者を対象とした学習支援の企画・講師が社会活動の中心となっている。地域の社会活動としては、高知県が主催する介護の日のイベントでの介護福祉啓発事業の企画への参加や当日のイベントへの参加をした。また、来年度は、日本介護福祉士養成施設協会中国四国ブロック教職員研修会の担当が高知県になっているため、実行委員としての準備活動を行った。

これらの活動は、来年度も引き続き行っていく予定である。いの町社会福祉協議会成年後見運営委員や南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員も継続しつつ、高知県の福祉介護の課題に対して、少しでも貢献ができるように取り組んでいきたい。

○研究活動

（1）論文

- ・ 遠山真世（2015）「『障害を理由とした差別』および『合理的配慮』をめぐる問題整理と論点抽出」『社会政策研究』7(1)：pp. 88-98.

（2）競争的資金の獲得

- ・ 科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号 26780314，平成 26 年度－平成 28 年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：「重度障害者の就労支援システムの再構築に向けた実証研究」

○教育活動

（1）担当科目

- ・ 相談援助演習・相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ
- ・ 相談援助実習指導・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ・相談援助実習
- ・ 福祉研究演習Ⅰ・福祉研究演習Ⅱ・福祉研究演習Ⅲ
- ・ 障害者福祉論
- ・ 地域学実習Ⅰ

（2）学生支援

- ・ 17 期生学年担当
- ・ 池吹奏楽団顧問

○委員会活動

（1）全学

- ・ 広報専門委員会
- ・ 学生委員会

（2）学部

- ・ 実習委員会
- ・ 広報委員会
- ・ 学生委員会
- ・ 国試対策ワーキンググループ
- ・ 福祉実習支援室長

○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当（7月25日）
主催：高知県地域福祉部 障害保健福祉課
特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも
場所：高知市障害者福祉センター

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

本年度は科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組み、論文を執筆した。また、高知県内の障害者就労継続支援B型事業所3か所に対して、インタビュー調査を行うことができた。

次年度は3か所でのインタビューの結果を分析するとともに、引き続き他の事業所への聞き取り調査も実施し、それらの分析結果をまとめ、学会発表や論文執筆を行いたい。

（2）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深められるよう努めた。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

2回生の学年担当としては、全体としては落ち着きつつも、学習面・生活面で個別対応が必要となる場合も多く、状況に応じて学部教員と情報共有を図り、健康管理センターや学生・就職支援課とも連携しながら取り組んだ。今後も学生ひとりひとりと丁寧に関わり成長を支えるとともに、就職活動や国家試験対策への意識づけも行っていきたい。

（3）委員会活動・社会活動等について

本年度は昨年度につづき、全学広報委員としてオープンキャンパスの学部プログラムを運営した。また新たに学生委員長として学生支援に携わり、学部教員や学生・就職支援課、健康管理センターとの連携にも努めた。国試対策ワーキンググループでは、国試対策講座や国試合宿に参加するとともに、勉強方法や模擬試験等のふり返りについて個別相談も行った。福祉実習支援室長としては、福祉実習支援室の業務が円滑に行われるよう配慮した。

学外では高知県要約筆記者養成講座で講師を担当し、地域のNPO法人や要約筆記者をめざす方々との関わりをつくることができた。また、障害当事者の方々が主催するよさこいチームに踊り子として参加し、障害のある方々やご家族との交流を深めるとともに、学生に対して練習補助や学習支援のボランティアを紹介することができた。次年度も継続して携わるとともに、社会活動の幅をさらに広げていきたい。

鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

○ 研究活動

[論文]

- ・ 鳩間亜紀子（2015）「訪問介護のアウトカム評価に関するシステマティックレビュー」『老年社会科学』37（3），295-305.

[競争的資金等の獲得状況]

- ・ 日本学術振興会平成27年度科学研究費助成事業，基盤研究（C），「在宅における高齢者の移送をめぐる事故の実態」研究代表者

○ 教育活動

[学部科目]

- ・ 社会福祉入門演習（1回生前期：オムニバス）
- ・ 社会福祉基礎演習（1回生後期：オムニバス）
- ・ 高齢者福祉論Ⅰ（1回生後期）
- ・ 相談援助演習Ⅰ（2回生前期），相談援助演習Ⅱ（2回生後期）
- ・ 相談援助実習指導Ⅰ（2回生前期），相談援助実習指導Ⅱ（2回生後期）
- ・ 相談援助実習指導（3回生前期），相談援助演習（3回生後期）
- ・ 相談援助実習
- ・ 福祉研究演習Ⅰ（3回生前期），福祉研究演習Ⅱ（3回生後期）
- ・ 福祉研究演習Ⅲ（4回生通年）

○ 委員会活動

[全学]

- ・ 入試実施委員

[学部]

- ・ 学生委員（第15期生学年担当）
- ・ 就職委員
- ・ 実習委員
- ・ 入試広報担当：（高校訪問）高知南高校 2015年7月8日長澤教授に同行
- ・ 学部長選挙管理委員

○ 社会的活動

- ・ 平成27年度介護福祉士国家試験委員
- ・ 日本介護福祉学会評議員

○ 総合評価及び今後の課題

教育活動については、「高齢者福祉論Ⅰ」では特に、授業のスピードに配慮し内容を検討したためか、学生の理解度や主体性の向上が感じられた。「福祉研究演習」では、これまでと同様にテキストを用いた基礎的な学修を中心に行ったが、調査の演習や施設見学の実施ができなかった。学生の希望や都合と相談した結果であ

教育研究活動報告書（鳩間 亜紀子）

るが、これまでと比較しゼミ全体の学修目標を達成するのが難しくなっている。学生の都合や負担等も考慮しながら検討したい。

学年担当である15期生は4回生となり、卒論執筆、就職活動、実習、国家試験と、ストレスの多い1年を乗り越えてくれた。入学後は年を重ねるごとに学生生活を把握する機会も少なくなっていたが、この最終学年での関わりが最も多かった。様々な場面で、精神的な不調等や家庭の問題等が顕在化することも多く、学生との継続した関わりとゼミ担当教員を中心に他の先生方との連携が求められた。

全学委員会は入試実施委員会、学部委員会は主に就職委員会を担当した。入試は学部委員の長としてたどたどしく務め、無事終えることができたが反省点も多い。就職委員会では、学年担当の橋本力助教、丸山裕子教授（精神コース）と三好弥生講師（介護コース）、ゼミの先生方などのご協力もあり、就職支援を行うことができた。求人等が広く集まるため、情報の整理や学生への提供方法などは、学生と十分に確認する必要があると感じた。

研究活動については、レビュー論文を発表することができた。全体の状況としては、前期はなんとか進められたが夏以降は集中して取り組むことができず、かなり遅れてしまっている。研究の進め方については見直さなければならない。

福 間 隆 康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

（1）論文

1. 福間隆康「障がい者の雇用管理に関する予備的考察」Discussion Paper Series, No.20, The Management Society of Hiroshima University, 2015年12月。
2. 福間隆康「知的障がい者の仕事への動機づけに関する事例研究—承認の方法を中心に」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第65巻, 73-81頁, 2016年3月。
3. 福間隆康「介護職の自律性と職務満足との関連—能力と組織風土によるモデレーター効果」『広島大学マネジメント研究』第17号, 1-12頁, 2016年3月。

（2）その他

1. 福間隆康「障がい者の動機づけと企業の就労支援に関する研究—特例子会社による事例分析」第23回職業リハビリテーション研究・実践発表会（東京ビッグサイト）, 2015年11月。

（3）競争的資金の獲得状況

1. 平成25年度～27年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「サービス業における人材マネジメント・モデル構築に関する研究」（共同研究・研究分担者）
2. 平成26年度～28年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「障害者雇用の組織マネジメントに関する研究」（研究代表者）
3. 平成26年度 高銀地域経済振興財団助成金「農業分野における障がい者雇用のマネジメント」（単独研究）

○教育活動

1. 福祉対象入門
2. 福祉援助入門
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 福祉研究演習Ⅰ
5. 福祉研究演習Ⅱ
6. 福祉研究演習Ⅲ
7. 地域福祉活動Ⅰ
8. 相談援助演習Ⅰ
9. 相談援助演習Ⅱ
10. 相談援助実習指導Ⅰ
11. 相談援助実習指導Ⅱ
12. 相談援助実習
13. 地域学実習Ⅰ

○委員会活動

（1）全学

1. 地域教育研究センター生涯学習部会委員
2. 入試実施委員会委員
3. センター試験実施委員会委員
4. 国際交流委員会委員
5. 職業実践力育成プログラム（BP）委員

（2）学部

1. 入試関係広報ワーキング委員

○社会的活動

1. 日本労務学会理事
2. 高知市救護施設整備等事業者選定審査委員会委員

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究代表者として成果の一部を学会報告するとともに、研究紀要に掲載することができた。また、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究分担者として成果の一部を学会誌に掲載することができた。次年度は、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の形として、学術雑誌に論文を投稿する予定である。

2. 教育活動

授業では、アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き、学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。また、ICTを活用した授業を実施し、学生には、より発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。次年度は、課題解決型学習を取り入れ、学生の主体性を引き出せる産学共同授業を実施していきたい。

3. 委員会活動

本年度は、地域教育研究センター生涯学習部会委員として、県内外の高等学校3か所で大学出前講義を行った。また、国際交流委員会委員として、エルムズ大学短期留学研修生と本学部生との交流事業を円滑に運営することができた。入試実施委員会委員およびセンター試験実施委員会委員として、入試業務を円滑に行うことができた。

4. 社会的活動

高知県中小企業家同友会の定例会において、県内の中小企業と関係を作ることができ、関心のあるテーマを把握することができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文

- ・三好弥生（2016）「要介護高齢者の誤嚥を防ぐ食事ケアに関する基礎知識」『四国公衆衛生学会誌』61（1）、57-62.

2. 著書

なし

3. 発表

- ・三好弥生「要介護高齢者の誤嚥予防に関する関連領域の知見の整理」平成27年度四国公衆衛生研究発表会（徳島）2016年2月

○教育活動

1. 学部担当科目

「こころとからだのしくみⅠ」

「介護総合演習Ⅰ」（1回生・後期）

「介護過程Ⅱ」

「介護総合演習Ⅱ」（3回生・前期）

「介護過程Ⅲ」（2回生）

「介護総合演習Ⅱ」（2回生・前期）

「介護過程Ⅲ」（3回生）

「介護実習Ⅰ」（1回生）

「医療的ケアⅠ」

「介護実習Ⅱ」（2回生）

「医療的ケアⅡ」

「介護実習Ⅱ－②」（3回生）

「高齢者福祉論Ⅱ」

「福祉研究演習Ⅰ」

「福祉研究演習Ⅱ」

「福祉研究演習Ⅲ」

○委員会活動

1. 全学

共通教育部会員

2. 学部

- ・教務委員
- ・就職委員
- ・実習委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・第 28 回介護福祉士国家試験実地試験委員
- ・高知県福祉介護人材確保推進協議会

2. 出前講座

- ・伊野中学校出前講座 対象：中学 1 年生、「コミュニケーション技術ーメッセージを共有するー」（12 月 18 日）

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動について

平成 27 年度は、前年度高知県立大学「科研費」獲得支援助成を受け進めてきた「経管栄養を望まない終末期高齢者の食事支援に関する研究」の成果を発表することができた。次年度も時間を捻出し、引き続き高齢者の看取りに関する研究を進めていきたいと思う。

2. 教育活動について

今年度は、介護コース教員の退職・就任に伴い担当科目の大幅変更を余儀なくされ、初めて「介護過程」を担当することとなった。授業準備には大幅な時間を費やしたが、まだ十分な授業内容ではなかったと反省している。今年度は、教材や教育方法を見直し、学生の理解が深まる授業としたい。

また、今年度より介護コース卒業生向けリカレント教育を開始した。厳しい環境にある介護福祉現場の状況を共有する、関連する職場の状況を知るよい機会ともなっている。次年度も年 3 回程度の開催を予定している。

3. その他

介護コースでは、平成 26 年度入学生より大幅なカリキュラム変更を行っており、移行期にある昨年度は、夏に新カリキュラムの「介護実習Ⅱ」と旧カリキュラムの「介護実習Ⅱ-②」を同時に実施した。これについて、予め新規実習先を確保するなど準備を進め、混乱なく無事に終えることができた。

また、黒田准教授のご退職により、平成 27 年度から介護コース長の役割を担うことになった。年度初めは、厚生労働省への報告書など慣れない書類作成に取り組んだ。くわえて、夏には介護コース設置以来 2 度目の監査（実質的には初めて）を受けることとなり、その準備に追われた。今後は次の監査を見据えた書類の作成・保管に努めたい。

○研究活動

（1）論文・報告書・著書・発表

- ・稲垣佳代（2016）『『失敗』に対する認識の変化が可能にしたソーシャルワークの価値に基づく就労支援—やどかりの里における谷中輝雄の実践からの考察—』高知県立大学紀要社会福祉学部編,65,95-104.

（2）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号 26780315、平成 26 年度—28 年度）
研究代表者：稲垣佳代
研究課題名：「精神保健福祉士がもつ就労イメージの変容プロセスと支援への影響に関する研究」

○教育活動

（1）講義

- ・精神保健福祉援助技術各論
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・社会調査の基礎（質的調査）
- ・社会福祉入門演習
- ・社会福祉基礎演習
- ・精神保健学

（2）講義以外

1. 国家試験受験生への学習支援
精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」に係る受験対策講座を開講した。
2. 太鼓部顧問
3. 平成 27 年度入学生 学年担当
4. ボランティア募集の窓口業務

○委員会活動

- ・実習委員会
- ・入試委員会
- ・教務委員会
- ・学生委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

- ・日本精神保健福祉学会 事務局員

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

今年度の教育活動は、次の2点について述べる。1点目は精神保健福祉士養成に係る科目について、2点目は学年担当業務についてである。

まず精神保健福祉士養成に係る科目について、今年度はこれまで準備を進めてきた精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱが新カリキュラムのもと初めて実施された。学生、実習先、事務局の理解・協力を得て、大きな混乱なく実施することができた。

また、これまで読み替え科目としていた精神保健福祉援助演習（基礎）について、厚生労働省の指針改正に伴い、読み替えから免除への変更に係る業務を教務委員として担当した。時期を同じくして、精神保健福祉援助実習Ⅱの単位変更に係る業務も行った。これらの業務を通じて、本学部のカリキュラムや教務関連の手続きについて理解を深めることができた。

さらに講義科目については、休職した教員の担当科目であった精神保健学をオムニバスで実施することになり、私は主に壮年期・職場におけるメンタルヘルスについて講義等を行った。1月から産休に入ったため、精神保健福祉援助技術各論は1～2月実施予定の授業を前倒しで実施し、学生には負担をかけてしまった。そして、演習・実習などオムニバスで同じ科目を担当している先生方にもご負担をかけてしまった。講義科目等については、授業中の学生の反応や授業アンケートをもとに内容を改善していく必要がある。

次に、学年担当業務について述べる。井上先生とともに新入生の学年担当となり、「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」の主担当となった。しかし、学年担当としての業務はそれだけに留まらず、履修登録に係るサポートや授業料免除に係る人物評価、学生の心身のトラブルへの対応、科目担当教員との連絡調整、ボランティアの周知・連絡調整など多岐にわたった。手探りの状態ではあったが、学部長をはじめ学部の先生方からのサポートや助言を得て、井上先生と協力して業務を行うことができた。しかし、講義科目と同様に学年担当についても、井上先生をはじめ、産休・育休中私に代わって学年担当を引き受けていただく田中眞希先生にもご負担をかけてしまう状況が生じた。

（2）研究活動について

第二子妊娠のため行動範囲が制限され、調査を進めることができなかった。その一方で、「精神保健福祉士はソーシャルワーカーになり得ているのか」という現在の問題意識に対する先行研究をまとめるとともに、PSWの礎を築いた谷中輝雄氏の実践をもとに、ソーシャルワーカーの価値に基づく就労支援について論考し、本学紀要に投稿した。その結果、論説として掲載が認められた。

（3）今後の課題

平成28年1月に第二子を出産した。そのため、平成28年度は育児休業を取得し、平成29年4月に復帰する予定である。育児休業中は、育児に専念する一方で、復帰後、教育・研究活動がスムーズに再開できるよう準備を進めたい。

上田 恵理子

Eriko UEDA

○研究活動

1. 論文

上田恵理子（2015）「介護における二人称関係の成立—高齢者と共有する介護—」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』65, 31－42.

2. 学会発表

西川大輔・河合誠也・小林里帆・上田恵理子・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰：自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発(6) 中学生～高校生期：映画制作から見出した新たな可能性，第14回研究大会（北海道），2015年8月

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ

○委員会活動

- ・広報委員会
- ・学部実習委員会
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・親交会委員

○社会的活動

無し

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

教員1年目ということで、主担当の先生が行なっている授業の様子を見学したり，数コマ授業を担当したりした。担当した授業では，見学した内容や研修で学んだ授業方法を活用し，事例やグループ演習など学生が興味関心を持つように心がけ授業展開を行なった。そこで，授業展開の方法や，教えることの難しさなど身をもって学ぶことができた。

また，9月と2月に日本介護福祉士養成施設協会主催の介護教員講習会に参加し，教員としての知識や姿勢を学ぶことができた。そこで，介護福祉士養成のあり方や現状の

教育研究活動報告書（上田 恵理子）

厳しさを知り、まずは自己研鑽に努めなければいけないと感じた。今後の授業では、これまで高齢者福祉現場での実践から得た経験と、講習会での学びを結び付け、学生がイメージをしやすい授業展開ができるように努力したい。

介護実習については、主担当の先生に同行し、学生への指導方法や実習施設との関係づくりを見学させていただいた。次年度は、他の先生方に相談や助言をいただきながら、学生一人ひとりに合わせた指導方法を考え、学生が充実した実習を行なえるようにしていきたい。

2. 研究活動について

今年度は主体的な研究活動はなく、博士前期課程で書いた論文の再編集を行い、高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿を行なった。今後は自身の興味関心が深い高齢者分野での研究を進めていきたい。

3. その他

全体を通して、委員会活動や助教としての業務など、主体的な活動があまり実施できなかった。委員会は来年度も同じであるため、1年目で得た経験を活かしながら活動を進めていきたい。

また私自身、県外出身で高知に移住して1年目ということもあり、社会活動が乏しい1年であった。今後は、積極的に地域に出向き、地域の方との交流も深め、介護現場と教育の場をつなげられる活動も考えていきたい。

○研究活動

（1）学術論文

- ・加藤由衣（2016）「スクールソーシャルワークにおける省察的実践の意義－省察的実践の特性分析から－」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 65 号，43-57.

（2）学会報告

- ・加藤由衣・西梅幸治・中村佐織「地域包括支援センターにおけるアセスメント方法の構築（1）－エコシステム視座からの指標の検討－」日本ソーシャルワーク学会第 32 回大会（東京），2015 年 7 月

（3）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（4）競争的資金の獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））「省察的実践を志向したスクールソーシャルワーク現任教育方法の研究」（平成 27～29 年度），研究代表者
- ・文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの研究」（平成 25 年～27 年度），研究分担者（研究代表者：中村佐織）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成 27～29 年度），研究分担者（研究代表者：丸山裕子）

（5）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2015）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2016』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
- ・「相談援助演習」
- ・「相談援助実習指導Ⅱ」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅰ」
- ・「虐待防止論」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」
- ・「相談援助実習」

（2）クラブ活動

- ・ハモ☆いけ顧問
- ・バスケットボール部顧問

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部学生委員会
- ・入試広報ワーキンググループ
- ・学部教務委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ
- ・第16期生学年担当

○社会的活動

（1）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

今年度は、スクールソーシャルワーカーの省察的実践を促進する教育方法の研究に着手してきた。その前提として、スクールソーシャルワーカーによる省察的実践の意義を明確にすることから始め、成果をまとめた。しかし、予定していた調査を実施できなかったため、次年度は、スクールソーシャルワーカー等へのインタビュー調査をとおして、省察的実践を促進する要因を明らかにできるように、計画的に研究を進めていきたい。

また、エコシステム研究会では、ソーシャルワーク実践におけるコンピュータ支援ツールについて、地域包括支援センターの実践場面に特化して検討を進め、その成果を学会報告した。次年度も継続して支援ツールの内容や活用方法を探究していきたい。

（2）教育活動について

講義・演習では、実践事例を用いた説明やグループワーク、視聴覚教材の活用等により、学生がソーシャルワークの概念に対する理解を深めることができるような授業の組み立てを意識した。また、問いから始まる授業の導入や学生同士の相互評価の実施など、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を工夫した。今後も、学生からのフィードバックをもとに授業の改善を図りつつ、学生の理解を促進できるように努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。特に今年度は、実習前にソーシャルワーク支援に関する演習を新たに実施した。次年度は、学生の学びや成果をふまえて、実習前後の一連の教育展開を検討・改善していきたい。また次年度は、約90名が配属実習を行うため、個々の学生にきめ細やかな指導・支援が行えるよう、チームティーチングを意識した全体の状況把握と個別指導に努めたい。

国家試験対策の支援では、学習環境の整備や学習支援を行った。特に今年度は、前期の個別面談の実施により、学生の受験に対する早期の意識づけに努めるとともに、卒業論文や就職活動をふまえた学習計画など、学生の状況にあわせた支援を重視した。今後も学生全体の士気を高めつつ、丁寧な個別支援を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。また次年度は、4回生の学年担当として、就職活動の相談・支援もふまえ、学生生活全体を意識してサポートするよう努めていきたい。

鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

○研究活動

- ・鈴木裕介（2015）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究—地域を基盤として支援を行っている福祉専門職に対するインタビュー調査に基づいて」『社会福祉学』56(3), 58-73.
- ・鈴木裕介（2015）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造」『介護福祉学』22(2), 103-113.
- ・井上健朗・鈴木裕介・西内章（2015）「医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの今日的課題」『医療社会事業』54, 47-54.
- ・井上健朗・鈴木裕介（2015）「呼吸機能障害とソーシャルワーク」『メディカルリハビリテーション』189, 31-39.
- ・鈴木裕介（2016）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究—要介護高齢者に対するインタビュー調査に基づいて」『医療社会福祉研究』25, 27-42.
- ・鈴木裕介（2016）「医療ソーシャルワーカーが行うアドボカシー援助活動の構成要素」『医療社会福祉研究』25, 55-67.
- ・鈴木裕介（2016）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造とその関連要因」『高知県立大学大学院博士論文』

○学会発表

- ・鈴木裕介（2015）「医療ソーシャルワーカーが実践するアドボカシー援助活動の構成要素」日本医療社会福祉学会 第25回大会.
- ・川上めぐみ・鈴木裕介・井上健朗・ほか（2015）「転院に影響を及ぼす患者の背景要因の分析—ソーシャルワーカーの介入開始から転院までに着目して」全国自治体病院学会 第54回大会.

○競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手研究(B), 課題番号:26780314, 平成26年度-28年度)

研究代表者：鈴木裕介

研究課題名：「中山間地域で暮らす高齢者の医療に関連する福祉ニーズの評価指標の開発」

○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント演習

- ・保健医療サービス
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習

○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員
- ・学生委員
- ・実習委員
- ・入試委員
- ・入試広報ワーキンググループ
- ・国試対策支援ワーキンググループ
- ・17期生学年担当

○社会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会にて「医療ソーシャルワーカーが行うアドボカシー援助活動」について発表（日程：平成28年2月17日，会場：高知医療センター）

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

本年度は、「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造とその関連要因」として博士論文を提出することができた。引き続き同テーマの分析を進め、論文としてまとめる予定である。

（2）教育活動について

講義は、昨年に引き続きソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った。具体的には、理論についての講義の直後にロールプレイを行い、具体的実践過程を理解できるよう努めた。

実習教育は、実習後教育として実習前と実習後の自身の変化や知識の捉え方について考察し、実習体験の理解を深めた。

（3）委員会活動・社会活動について

高知医療センターの医療ソーシャルワーカーと共同研究を行い、全国自治体病院学会で発表を行うことができた。また同内容で高知医療センターの学内学術集会にて発表した結果、最優秀賞を受賞することができた。来年度も継続して協働事業を行いたい。

○研究活動

1. 論文

宮上多加子・田中眞希 (2016) 「准看護師養成校における社会人学生の仕事に対する思いー介護職経験者の学習プロセスからー」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』65, 1-12.

2. 学会発表

河内康文・宮上多加子・田中眞希：介護福祉士としての職業経験と仕事の信念ー経験学習に基づく分析ー，日本社会福祉学会中国・四国ブロック第47回愛媛大会（松山），2015年7月

田中眞希・宮上多加子・河内康文：専門職養成教育を通じた社会人学生の仕事への「思い」の変化ー介護福祉士養成校と准看護師養成校との比較ー，第23回日本介護福祉学会大会（金沢），2015年9月

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ（1回生，2回生）
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ（2回生，3回生）
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護実習Ⅱー②
- ・地域福祉活動

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員
- ・学部実習委員
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部国際交流委員
- ・学部学生生活委員（1月より18期生学年担当）

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・ノーリフティングケア推進会議（高知県）委員
- ・高知県立大学同窓会しらさぎ会奨学金担当理事

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

昨年度入学生より、介護福祉士養成課程のカリキュラムを変更した。そのため、本年度は生活支援技術Ⅱを前期・後期ともに実施し、内容と対象学年が異なる介護総合演習Ⅱを同時に行うなど、少し混乱しそうになり、内容等を確認しながら行うことがあった。

講義・演習では、グループワークを取り入れ、事例を用いた説明や視聴覚教材の使用など、学生が主体的に取り組めるように工夫した。また、リアクションペーパーを用いて授業の理解度などを確認し、授業内容や教授方法の改善を図った。今後も、学生が授業に参加しやすい環境をつくることを心がけたい。

介護福祉実習について、旧カリキュラムと新カリキュラムが混在する1年間であったが、施設・事業所の実習指導者が困惑することがないように、連絡を密にとるなど連携して行ったため大きな混乱はなく順調に実習を進めることができた。

次年度は、新カリキュラムでの全ての介護福祉実習が行われる年度となる。そのため、実習内容や時期について、他の教員や実習指導者、学生の意見を聞き、よりよい実習の体制や環境で介護福祉実習が行えるように検討する機会としたい。

1月から平成28年度末まで、産休・育休暇に入った稲垣先生の代わりとして、18期生の学年担当を行うことになった。井上先生や他の先生方のご助言を得ながら、学生が困惑することがないように務めたいと思っている。

2. 研究活動について

昨年度実施した調査結果を公表することができた。今年度は科学研究費助成事業の研究分担者として、福祉施設や医療現場で働く准看護師に対して調査を行い、結果を分析した。次年度以降、これらの分析をさらに進めるとともに、調査を実施するなど、計画的に進めたいと考えている。

3. 社会活動について

本年度からノーリフティングケア推進会議の委員として、高知県のケアの質向上を目的に行われている会議に参加している。会議には実習先の施設長や担当者、他の養成校の教員、専門職団体の代表者、県の担当者などが参加しており、ケアのあり方について、それぞれの立場で多様な意見を聞く機会となっている。改めて介護福祉について考える機会にするとともに、学生の教育に役立てたい。また、貴重な地域での活動の機会となるので、少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている。

二本柳 覚

Akira NIHONYANAGI

○ 研究活動

1. 論文

- 1) 二本柳覚・藤澤茜・富島喜揮（2015）「中国・四国地区のスクールソーシャルワーカー事業の歩みと今後の展望」（査読なし）『日本学校ソーシャルワーク学会 10 周年記念誌』77-81.
- 2) 二本柳覚・上原久（2015）「室の高いケアマネジャーを育てるエキスパート養成に向けた取り組み ―野中塾の実践から―」（査読あり）『ケアマネジメント学』14, 66-76.

2. 著書

なし

3. 学会発表

- 1) 二本柳覚（2015）「ソーシャルワーカー養成におけるケアマネジメント技術教育の確立に関する研究― ケアマネジメント技術教育の現状についての実態調査 ―」日本社会福祉学会第 63 回秋季大会, 2015. 9. 20

4. 競争的資金の獲得

- 1) 科学研究費補助金（若手(B), 課題番号: 26780312, 平成 26-28 年度)
研究代表者: 二本柳覚
研究課題名: 「ソーシャルワーカー養成におけるケアマネジメント技術教育の確立に関する研究」
- 2) 公益財団法人 大同生命厚生事業団 平成 27 年度地域保健福祉研究助成
研究代表者: 白木裕子（株式会社フジケア）
共同研究者: 中村高志（福岡教育大学）・二本柳覚（高知県立大学）
研究課題名: 「認知症高齢者を支えるための介護支援専門員の支援の在り方に関する調査研究」

5. その他

- 1) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編（2015）「精神保健福祉士国家試験模擬問題集＜専門科目＞2016」

○ 教育活動

- ・精神科リハビリテーション学
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健学
- ・地域学実習Ⅰ
- ・地域福祉活動

○委員会活動

- ・総務委員
- ・広報委員
- ・入試実施委員
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・国試対策ワーキンググループ

○社会的活動

1) 講演・講座等

- ・2015年度高知県児童福祉司認定講習会講師「障害者福祉論」担当(9月2日)

2) 学会活動

- ・日本精神保健福祉学会事務局員
- ・日本学校ソーシャルワーク学会地区世話人

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

本年度は論文が2本、報告が1本であった。論文については年に1本のペースを死守することが出来、ほっとしているが、より活発な取り組みを行いたい。

科研費等外部資金の獲得については、科研費(若手B)の取り組みが2年目となったが、十分な研究体制を整えることができず、満足いく結果を出すことができなかった。来年度が最終年度となるため、より体制を整えて進めていきたい。

また、今年は外部資金研究として他施設の方との共同研究を進めている。こちらも来年度まで実施するもののため、計画的に進行させていきたい。

(2) 教育活動について

本年度担当した「精神科リハビリテーション学」では、教科書のみでなく、視聴覚教材も含めて興味関心を持ちやすくなるような構成になるよう意識して運営を行った。また、パワーポイントも、図やイラストを意識的に配置し、理解しやすいことを意識して作成した。本年度も、よくあるリアクションペーパーではなく、講義に対する「質問」を書かせる事によって、講義内容について意識的に取り組めるよう試みた。これにより、学生が理解度やこちらの説明で不十分な点が明らかとなり、不足点を補いながら講義を進行できた。

また国家試験対策では、基礎的な知識を再生することを中心とした国家試験対策講座を精神専門科目3科目担当し、また、学生の疑問点に対する指導について、丁寧に行ってきた。学生たちのたゆまぬ努力もあって、本年度は精神保健福祉士の国家試験合格者が100%を達成することができた。来年度についても、丁寧な支援を実施していきたいと考える。

(3) その他

本年度は、地域学実習Iなどを通して、高知県における防災教育について、多少なりとも係ることができた。来年度は、県内施設と共同で防災対策について考える機会が予定されており、これを機会に、高知県に根ざした研究の実施を進めていくとともに、県立大学の教員として、県民に還元できるような取り組みを実施していきたい。

○ 研究活動

1. 論文

「介護支援専門員によるインフォーマル・サポート活用に影響を与えるケアマネジメント実践の検討」、橋本力、岡田進一、白澤政和、『厚生指標』 62(15)、15-22

2. 競争的資金の獲得状況

平成 27 年度科学研究費助成事業（若手研究 B）「介護支援専門員のワーク・ライフ・バランスとその推進方策に関する実証的研究」、研究代表者 橋本力（平成 27～29 年度）

○ 教育活動

- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助演習
- ・ 虐待防止論
- ・ 現代社会論
- ・ 社会調査の基礎
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ ケアマネジメント論

○ 委員会活動

- ・ 学生委員（15期生学年担当）
- ・ 就職委員
- ・ 実習委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ
- ・ 情報処理部会

○ 社会的活動

- ・ 社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会
11 月、12 月、1 月に 3 回実施（内 2 回担当）。会場：高知県立大学。

○総合評価及び今後の課題

研究活動

今年度は、介護職員のワーク・ライフ・バランスに関する調査を実施した。次年度は、これまでの調査結果を論文として完成させる予定である。

教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。また15期生の学年担当として4回生の学生生活をサポートしてきた。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと考えている。

社会的活動

今年度における社会的活動は、社会福祉士会による社会福祉士受験対策勉強会を実施した。次年度においては、自身の専門および研究成果等を地域や福祉現場へ還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

2015 年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

委員会名	構成メンバー			
教務委員会	<u>西内 章</u>	田中 きよむ	三好 弥生	加藤 由衣
	稲垣 佳代			
入試委員会	宮上 多加子 <small>（全学入試委員・学部入試実施委員）</small>	<u>鈴木 孝典</u> <small>（全学入試副委員長・学部入試実施委員）</small>	<u>鳩間 亜紀子</u> <small>（学部入試実施委員長）</small>	福間 隆康 <small>（学部入試実施委員 / センター試験部会委員）</small>
	鈴木 裕介	稲垣 佳代		
学生委員会	<u>遠山 真世</u>	丸山 裕子	鳩間 亜紀子	井上 健朗
	加藤 由衣	鈴木 裕介	橋本 力	稲垣 佳代
実習委員会※	<u>丸山 裕子</u>	西梅 幸治 <small>（社会福祉士コース 主担当）</small>	三好 弥生 <small>（介護福祉士コース 主担当）</small>	鈴木 孝典 <small>（精神保健福祉士 コース主担当）</small>
就職委員会	<u>鳩間 亜紀子</u>	丸山 裕子	三好 弥生	橋本 力
広報委員会	<u>遠山 真世</u>	河内 康文	二本柳 覚	上田 恵理子
健康長寿センター	井上 健朗	河内 康文	田中 眞希	二本柳 覚
高知医療センター・ 県立大学包括的連携協議会	宮上 多加子	井上 健朗	鈴木 裕介	
	看護・社会福祉連携部会委員			
総務・予算委員会	<u>山村 靖彦</u>	西梅 幸治	河内 康文	田中 眞希
	二本柳 覚			
情報処理委員会	<u>鈴木 孝典</u>	橋本 力	二本柳 覚	
国試対策WG	<u>西梅 幸治</u>	遠山 真世	加藤 由衣	鈴木 裕介
	橋本 力	稲垣 佳代	二本柳 覚	

■：全学委員

一重下線：学部委員長

※ 実習委員会委員は上記委員長＋各コース主担当に加え、授業担当者全員

教 務 委 員 会

西 内 章

（１）教務委員会の開催

平成 27 年度は、大学基準協会による認証評価の実施、新カリキュラムの年次配置について継続的に検討を行い、学部教務委員会を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに計 13 回開催した。

（２）転学部生の内規に基づく手続き

転学部生の希望があったことから、その手続きについて学部長、事務局学生支援部、学部教務委員会、学年担当教員と協議した。平成 27 年度当初に、社会福祉学部の卒業要件に係る既修得単位認定を実施できるように準備を進めた。

（３）精神保健福祉実習の単位数変更

精神保健福祉援助実習Ⅱについて、平成 27 年度入学生までは 3 単位科目（135 時間）として配置していたが、平成 28 年度入学生より 2 単位科目（90 時間）として配置する手続きを行った。

本学部では、これまで社会福祉士と精神保健福祉士に係る実習を別々に体系づけて実施してきたが、厚生労働省による行政説明に基づいて、学部のカリキュラムポリシーに記載している社会福祉士指定科目と精神保健福祉士指定科目の一貫性に関する記述内容と合致する変更である。

（４）新カリキュラムの実施に伴う科目配置、年次移行スケジュール

平成 25 年度に行ったカリキュラムの改正を実施するために、27 年度も科目配置、年次移行を検討した。また平成 27 年度から共通教養科目の域学共生科目が実施されたことにより、学部専門教育科目と開講時期が重ならないように実施上の課題を検討した。

（５）卒業研究論文に関する発表会の開催

今年度も、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成し、卒業研究論文の具体的な進め方を示した。そして例年通り、卒論構想発表会を 5 月 18 日（月）、卒論中間発表会を 10 月 28 日（水）、卒論発表会を 2 月 10 日（水）に実施した。なお、3 回生後期の 1 月に行っている卒業研究論文の「仮テーマ」の提出時に、学生に社会福祉学部以外の専任教員から指導を受けるか否かの希望をとったが、社会福祉学部以外の希望する学生は 0 名であった。

（６）CD-R への卒論掲載承諾の実施

今年度から卒業論文を CD-R に記録し、4 回生と学部教員へ配布を希望する場合には「卒業論文集掲載承諾書」の提出を義務づけることにし、平成 27 年度卒業生から実施した。また次年度に向けて、倫理審査の終了報告も書類に加える等の改善を行う予定である。

（７）次年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12 月に『平成 26 年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2 回生へ配布と説明をした。そして 1 月にゼミ希望をまとめた。今年度も退職する教員があり、来年度のゼミ担当教員が 15 名となった。そこで 1 ゼミあたり 6 名目安として調整した。

（８）学習到達度アンケート調査および授業に関するアンケート調査の実施

平成 28 年 1 月に卒業年次生（15 期生）を対象とした「学習到達度アンケート調査」と、1～4 回生を対象とした社会福祉学部独自の「授業に関するアンケート調査」を実施した。調査結果を分析し、学部教育の改善を実施していく予定である。

（９）今後の課題

平成 28 年度も旧カリキュラムと新カリキュラムを並行して実施するため、新カリキュラムの移行スケジュールに基づき、両カリキュラムを着実に実施することが重要となる。また、次年度からキャンパスポータルシステムが本格的に導入されるため、その手続きを円滑に行う必要がある。そこで、次年度も学生の多様な履修を可能とするために、次年度は時間割や授業内容、科目配置について、学部教務委員会として総合・包括的な視点から検討を行っていききたい。

入 試 委 員 会

鳩 間 亜 紀 子

○ 平成 27 年度委員会の体制

全学入試委員会を宮上多加子学部長，全学入試実施委員を鈴木孝典准教授・福間隆康講師（兼センター試験部会委員）・鳩間（学部委員長），学部入試委員を稲垣佳代助教，鈴木裕介助教，二本柳覚助教が担当した。

全学入試体制として永国寺キャンパスでの入試実施が開始されたことに伴い，鈴木孝典准教授が池キャンパスでの全学入試委員会の副委員長を担当した。

○ 平成 28 年度入試の概況

区 分	募集人員 A	男女別	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		追加合格者数		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D
推薦	一般県内	20	男	3	3	3	3	3	3		3	3	0	3	3	-	1.0
		女	19	19	19	19	18	18		18	18	0	18	18	-	1.1	
		計	22	22	22	22	21	21		21	21	0	21	21	1.1	1.0	
	一般全国	10	男	3	0	3	0	1	0		1	0	0	1	0	-	3.0
		女	19	0	19	0	9	0		9	0	0	9	0	-	2.1	
		計	22	0	22	0	10	0		10	0	0	10	0	2.2	2.2	
計	30	男	6	3	6	3	4	3		4	3	0	4	3	-	1.5	
	女	38	19	38	19	27	18		27	18	0	27	18	-	1.4		
	計	44	22	44	22	31	21		31	21	0	31	21	1.5	1.4		
個別	前期	35	男	39	8	31	7	5	0	0	3	0	0	3	0	-	6.2
		女	89	16	85	15	36	7	0	0	32	7	0	32	7	-	2.4
		計	128	24	116	22	41	7	0	0	35	7	0	35	7	3.7	2.8
	後期	5	男	51	8	21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		女	102	20	51	11	9	4	0	0	9	4	0	9	4	-	5.7
		計	153	28	72	16	9	4	0	0	9	4	0	9	4	30.6	8.0
	計	40	男	90	16	52	12	5	0	0	3	0	0	3	0	-	10.4
		女	191	36	136	26	45	11	0	0	41	11	0	41	11	-	3.0
		計	281	52	188	38	50	11	0	0	44	11	0	44	11	7.0	3.8
社会人	若干人	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
私費外国人留学生	若干人	男	2		2		1			1		0	1		-	2.0	
		女	0		0		0			0		0	0		-		
		計	2		2		1			1		0	1			2.0	
合計	70	男	98	19	60	15	10	3	0	0	8	3	0	8	3	-	6.0
		女	229	55	174	45	72	29	0	0	68	29	0	68	29	-	2.4
		計	327	74	234	60	82	32	0	0	76	32	0	76	32	4.7	2.9

☑ 前期試験の課題図書：湯浅誠（2008）『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波書店

☑ 入学手続者の県内率：42.1%

委員会活動年度報告書（入試委員会）

○ 平成 28 年度入試の特徴

1. 前年度（平成 27 年度）と比し、志願倍率，入学手続き者の県内率は増加した．合格倍率は，平成 24 年度入試からほぼ減少傾向にあるものの，志願倍率は微増した．入学手続き者の県内率は，年度ごとに増減を繰り返しているものの，前年度と比較し，増加している（下表）．

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
志願倍率	4.7	4.4	5.1	5.9	6.3
合格倍率	2.9	3.2	3.6	3.9	4.0
手続き者の県内率(%)	42.1	39.7	46.6	41.1	45.8

2. 平成 26 年度入試まで続いていた，推薦入試の全国枠への県内からの出願はなかった（推薦入試の全国枠は，平成 23 年度から実施）．
3. 平成 26 年度入試より開始した社会人入試については，出願がなかった．
4. 私費外国人留学生入試については 2 名の出願があり，うち 1 名を合格とした．

○ 課題

1. 本学部を志願数は，昨年度と比較して微増しており，また入学手続き者の県内率も向上している．その背景として，今年度より試行的に開始した入試広報に関する取り組みが一定の功を奏したと推察される．しかしながら，その効果は入試結果からも十分とはいえず，引き続き，高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集し，今後の広報活動に役立てる．
2. 入試の実施体制（試験問題の作成およびチェック体制，入試関係資料の管理方法，当日の運営体制など）については課題を検討し，受験者に不利益が生じないように引き続き改善を図る．
3. 私費外国人留学生入試の実施体制（出願資格のチェック体制，当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の最低評価基準，語学力を試験で確認するための選抜方法など）について，国際交流委員の助言等をふまえ検討する．
4. 障害を有する受験者への受験上の配慮について，受験者に不利益が生じないように引き続き検討し，入学後の受け入れ体制の整備に円滑につなげる．

学 生 委 員 会

遠 山 真 世

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

学生のメンタルヘルス、悩み事などの相談は、学年担当教員を中心に、実習担当教員やゼミ担当教員とも情報を共有しつつ対応した。緊急時や対応が困難な場合は、健康管理センターや学生・就職支援課とも連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。

2. 経済的援助に関する対応

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生課と連携し、情報提供及び手続き支援を行った。

3. 事故・事件への対応

近年、交通事故や事件の多い状況が続いており、掲示板等による注意喚起、交通安全講習会やストーカー・サイバー犯罪対策セミナーの開催など全学的に対応が行われた。本学部でも、学年担当を通じて注意喚起や情報提供を積極的に行った。

平成 27 年度 池キャンパスにおける事故件数

・交通事故 23 件（うち社会福祉学部 3 件）

・交通事故以外の受傷 5 件（うち社会福祉学部 1 件）

計 28 件

4. 感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、B型肝炎抗体検査を実施、情報提供を行った。

5. 学生ニーズ調査結果への対応

昨年度に実施された「学生生活実態及びニーズ調査」の結果にもとづき、学部での対応について検討した。学部や授業に対する満足度が高いという結果を受け、引き続き充実した教育・相談を維持するとともに、より質の高い授業を展開できるよう取り組むこととなった。

○ 今後の課題

学生の健康面・経済面に関する相談、交通事故等について、本学部でも少なくない状況が続いている。学部学生委員会、学生・就職支援課、健康管理センターで情報を共有し、対応や防止に努める必要がある。また、欠席が続く学生や、精神面での課題をもつ学生、進路について悩む学生等に対しては、継続的かつ丁寧に相談・支援を行っているが、学生・就職支援課、健康管理センターとより円滑に連携し、本人や保護者への情報提供も含め、より積極的に関わっていくことが課題であると思われる。

実 習 委 員 会

丸 山 裕 子

1. 実習委員会の活動目的

本年度は、精神・社会福祉コースにおいて、4回生が新カリキュラムの初年度であった。また、社会福祉士の指定科目については、新カリキュラム移行の2年目であり、介護・社会福祉コースも新カリキュラム以降後2年目となった。入学年度により実習関連科目の進行が異なり複雑になったため、三福祉士の実習については、学生や実習先ときめ細かな連絡調整を行いながら、実習科目を円滑に実施するよう努めた。

2. 配属実習の内訳

本年度の実習生は、相談援助実習で69名（昨年度72名）、精神保健福祉援助実習が26名（同23名）、介護実習Ⅰは24名（同19名）、介護実習Ⅱが19名（同21名）、介護実習Ⅱ-②は、20名（同18名）、であった。

相談援助実習69名の内訳は、福祉事務所1名、社会福祉協議会26名、病院（精神科除く）14名、児童相談所3名、児童養護施設9名、児童家庭支援センター1名、児童自立支援施設3名、特別養護老人ホーム4名、養護老人ホーム2名、地域密着型介護老人福祉施設1名、障害児入所施設1名、療養介護事業所・医療型障害児入所施設2名、障害福祉サービス事業所1名、相談支援事業所等3名、知的障害者厚生相談所等1名であった。

精神保健福祉援助実習の26名の内訳は、精神科病院26名、精神保健福祉センター2名、障害福祉サービス事業所17名、地域活動支援センター4名、福祉事務所1名、障害者地域生活支援事業（指定相談支援事業）2名であった。

介護実習の内訳は、介護実習Ⅰ24名では、特別養護老人ホーム24名、障害者支援施設9名、重症心身障害児・者施設6名、通所介護事業所3名、訪問介護事業所3名、小規模多機能型居宅介護事業所21名、生活介護9名であった。介護実習Ⅱ19名では、特別養護老人ホーム15名、障害者支援施設4名であった。介護実習Ⅱ-②20名では、特別養護老人ホーム14名、重症心身障害児・者施設3名、障害者支援施設3名であった。

3. 実習連絡協議会

各実習先の実習指導者と配属実習のあり方や具体的な進め方、連絡調整を図るために、今年度も実習連絡協議会を開催した。平成27年11月16日（月）に介護福祉実習連絡協議会を実施した。続いて、平成27年3月8日（火）は、相談援助実習連絡協議会を開催、平成27年3月15日（火）には、精神保健福祉援助実習連絡協議会をそれぞれ開催した。今年度も各施設・機関の実習に関する意見を十分に聴取し、次年度に反映させていくことを確認した。

4. 円滑な実習体制づくり

相談援助実習・精神保健福祉援助実習・介護実習の3福祉実習を円滑に進めていくため、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士それぞれのコース責任者の教員と、実習委員会として会議を開催し、科目履修や配属実習に関連する申し合わせ、実習のてびきの作成要領について審議・協議を行った。

また例年通り、福祉実習支援室を担う各福祉実習担当助教と福祉実習支援室長、実習委員長との連絡会議を月1回実施し、実習事務や福祉実習支援室に関わる業務の充実を図った。

5. 成果と課題

（1）実習のてびきの改善

昨年度から、実習のてびきを「相談援助実習・精神保健福祉援助実習版」と「介護福祉実習版」に分けて作成することにした。前述したようにカリキュラム改正の過渡期にあり、また、今年度の実績を踏まえ、次年度に向け「相談援助実習・精神保健福祉援助実習版」の手引きの見直しを行った。本学では、基礎となる「相談援助実習」と2階立ての2階部分にあたる「精神保健福祉実習」は昨年度の「介護福祉実習」と同様に、手引きを別途作成することとした。三福祉士の実習全体の体系化や整合性を考慮しつつ、改正作業を行った。

なお、それぞれの実習のてびきは、他資格の履修科目について説明を加えるなど今後も内容を検討して改善していきたい。

（2）福祉実習支援室の体制づくり

配属実習の円滑な実施には、福祉実習支援室の機能が重要である。今年度も実習担当助教の教員による努力と創意工夫により、大きな問題もなく実習事務を終えることができた。実習先との連絡や書類のやりとりだけでなく、学生達の相談窓口にもなっている。福祉実習支援室の開設以来6年が経過し、実習委員会としても福祉実習支援室の活用方法について今後も検討したい。

（3）実習指導者講習会の開催

介護・社会福祉コースのカリキュラム改正との関連で、次年度の相談援助実習は、3年次実習生と旧カリキュラムの介護・社会福祉コース4回生を合わせた計100名前後を送り出す予定である。そのため、実習先の開拓と確保に向け、高知県社会福祉士会との共催により、平成28年1月23・24日の両日に実習指導者講習会を開催した。

就 職 委 員 会

鳩 間 亜 紀 子

1 社会福祉学部の就職活動支援

（1）就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2015年4月2日）
- ・家庭裁判所調査官職場見学，加藤由衣助教同行（2015年4月6日）

（2）個別相談等

学生課ワクワク Work!!と連携しつつ，学年担当教員，就職委員会，ゼミ担当教員が中心となり4回生の進路相談，履歴書の添削，面接練習等を行った。国家試験の可否によって内定取消になるケースが多かったため，国試対策ワーキングとも連携し学生の意識づけを行いつつ，内定先への確認や相談を促すようにした。3回生以下の学生に対しては，学部就職委員と学年担当教員が連携し，全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

（3）情報提供

学生課ワクワク Work!!が行う情報提供以外に，学部生向けの求人票を2階談話コーナーに掲示し，各教員宛に相談があった求人情報もあわせ情報提供した。ワクワク Work!!の活用やガイダンスへの参加を促すため，出席状況等を確認しながら個別にも情報提供を行うようにした。学生の意向については，学年担当教員が全学生と面談を実施し学生の承諾を得た上で，進路希望等についてゼミ教員と情報共有ができる体制を整えた。

2 進路状況

就職希望者：69名（全員就職決定）

進学希望者：1名（専門学校）

就職内定先：	① 企業	12名（16.9%）
	② 公務員等	10名（14.1%）
	③ 医療機関	20名（28.2%）
	④ 社会福祉協議会	3名（4.2%）
	⑤ 福祉施設等	24名（33.8%）

卒後勤務地：高知県内25名（36.2%），高知県外44名（63.8%）

3 今後の課題

公務員や福祉関連外の一般企業を希望する者が少なくないこともあり，学生への情報提供や就職支援は，今後も学生課ワクワク Work!!との連携が重要である。また，学生の就職活動のスピードや意識には，かなりばらつきがみられた。就職フェアや合同説明会へゼミやグループでの参加を促すなど，工夫が必要と思われる。

広 報 委 員 会

遠 山 真 世

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会（学部）は、全学広報専門委員会に遠山講師が参加、学部委員を河内講師・二本柳助教・上田助教が担当した。

（１）「大学案内」の編集・製作

2017年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新した。

（２）オープンキャンパス：8月2日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、体験授業（井上講師・福岡講師）、ゼミ室訪問、介護体験、サークル紹介、学部棟見学ツアーなどのプログラムを実施した。参加者数は添付資料のとおりである。

（３）高校生のための公開講座：8月1日（土）

本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらい、四国で唯一の公立大学で3福祉士資格に対応する本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。本年度は西梅准教授・鈴木准教授・後藤准教授が講座を担当した。参加者数は添付資料のとおりである。

（４）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度については、1回生16名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてPRを行った。

（５）学部パンフレットの作成

本年度は、昨年度作成した学部パンフレットを改訂した。年次で変更が必要な箇所について修正し、2,050部を作成した。

（６）学部ホームページ

①全学・学部のイベントごとに写真付きの記事を作成し、学部HPに掲載した。今年度は新たに、本学部教員やゼミ活動の新聞記事、および在校生から受験生への応援メッセージも掲載した。（計29件）

②掲載内容について確認・修正を行い、国家試験の結果等のデータを最新のものにした。

（７）キャンパス訪問への対応

本年度も高校生や進路指導教員による学部訪問が実施され（8校）、学部紹介、介護実習室の見学、災害時用簡易トイレの作成体験、事例検討のグループワーク体験などを行った。

○今後の課題

本年度は昨年と比べ、高校生のための公開講座・オープンキャンパスともに参加者数が減少し、とりわけ県内高校からの参加が少なかった。高校生や保護者にとって、より魅力的なプログラムを検討するとともに、高校にどのように働きかけていくかが課題である。また、学部HPは立ち上げ当初のものをもとに記事を更新してきたが、今後はスマートフォンに対応し、高校生の目にとまりやすい内容やデザインにすることが必要である。

平成27年度 高校生のための公開講座・オープンキャンパスの開催結果

2015.10.26
広報委員会

(1) 高校生のための公開講座（参加者44名）

	H27年度	H26年度	前年比
男性	6	10	-4
女性	38	42	-4
計	44	52	-8

	H27年度	H26年度	前年比
1年	0	0	0
2年	14	15	-1
3年	30	37	-7

	H27年度	H26年度	前年比
高知	12校	17校	-5
愛媛	1校	3校	-2
徳島	2校	2校	0
香川	1校	1校	0
大阪	0校	1校	-1
計	16校	24校	-8

(2) オープンキャンパス（参加者87名）

8月2日 参加者

全体	県内	県外
87	44	43

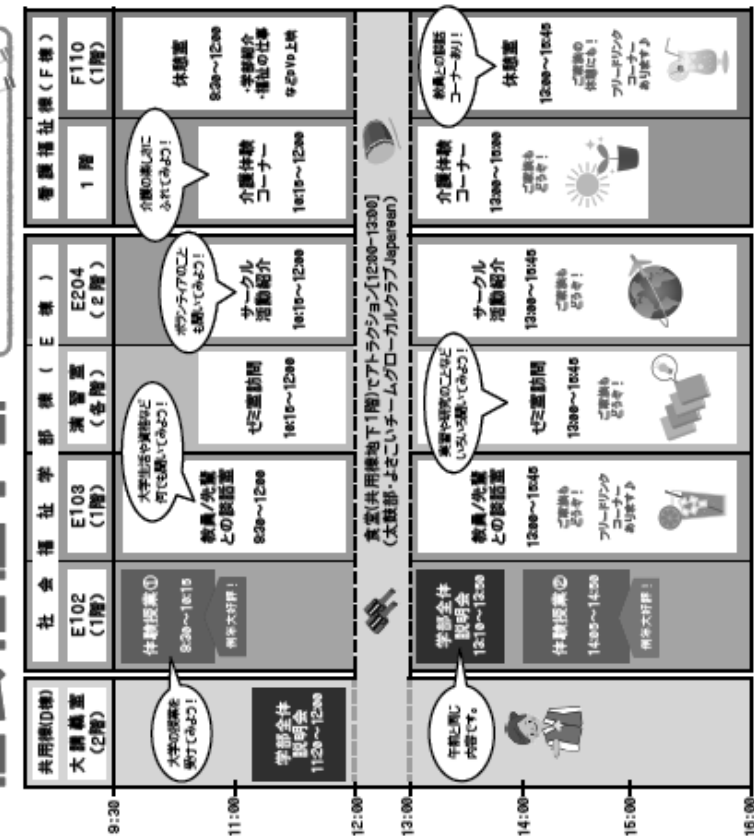
前年度との比較（H26年は、2日両日参加者⇒2カウント）

	H27年	H26年	前年比
全体	87	131	-44
県内	44	90	-46
県外	43	41	2

OPEN CAMPUS 2015 社会福祉学部

2015年8月2日(日)

受付：9時～随時
共用棟1階ロビー



体験授業④ (午前)

井上 健朗 先生
「医療と福祉のあいだ」

体験授業⑧ (午後)

福岡 隆康 先生
「価値観と他者への理解
— 多様な価値観」

体験授業⑤ (午後)

体験授業⑥ (午後)

体験授業⑦ (午後)

体験授業⑧ (午後)

第16回高校生のための公開講座
2015年度のLINE-UP!

8月1日(土) 10:00~16:00 (終了後アンケート)	
【池キャンパスへのアクセス】バス：土佐通ドリーΔサービス 高知県立大学・医療センター～ 高知県立大学 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター → 9:38 → 9:40 バス料 400円 340円	
10:00~	【開講式】高知県立大学社会福祉学部の紹介 (宮上 多加子 学部長)
1時限 10:20~11:50	【講座①】社会福祉士に関わる授業 「幸せに寄り添うソーシャルワーカーの仕事」 (西梅 幸治 准教授)
屋休み 11:50~12:50	11:50~12:50
2時限 12:50~14:20	【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「精神保健福祉士のしごと さぐる ささえる つくる」 (鈴木 孝典 准教授)
3時限 14:30~16:00	【講座③】介護福祉士に関わる授業 「『認知症介護』の過去・現在・そして未来」 (佐藤 由美子 准教授)
	【池キャンパスからのアクセス】バス：土佐通ドリーΔサービス 高知県立大学・医療センター～ 高知県立大学 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター → 16:46 → 16:50 → 17:13 → 17:18 バス料 340円 400円

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。あらかじめご承知おきください。

【会場】看護福祉棟 F110教室(予定)

健康長寿センター

井上 健朗

○活動内容

1. 健康長寿センター 運営委員会

全学での運営委員会として、平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに、計 11 回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（井上・河内・二本柳・田中）・総務部企画課健康長寿担当者

3. 平成 27 年度活動実績

・社会福祉学部がかかわった主なもの

①社会福祉リカレント教育講座

②健康長寿センター体験型セミナー 社会福祉学部主催 イン安芸市

③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については 3 名の教員による講座を行った。例年の 4 講座を本年は 3 講座にし、ひとつの講座は災害ソーシャルワークに関して、被災地支援を行っているソーシャルワーカーをゲストスピーカーに迎えて、シンポジウム形式で実施した。

②体験型セミナーを安芸市で行った。認知症の支援をテーマに医療ソーシャルワーカーを講師に招き、住民との対話形式の講座を行った。また河内講師と本学部学生による「簡易トイレの作り方講座」は災害対策に関心の高い参加者には好評を得ることができた。また地域の保健・医療・福祉の実践者と学生の貴重な交流の機会ともなった。公民館のスタッフの方、民生委員の方々の協力を得てチラシの個別配布など住民への周知を図ったが、当日の大雨などの問題もあり参加者が少なかったことが反省点となった。

③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

地域ケア会議の運営について看護学部・健康栄養学部の先生達とともに実際に地域ケア会議に参加し、その運営の目的や方法について考える機会を得ている。本年度は、ケア会議に対する評価指標の作成を行った。

委員会活動報告書（健康長寿センター）

健康長寿センター実施事業（社会福祉学部関連）

①リカレント教育講座

10/31	リカレント教育講座「介護人材の確保に関する動向と課題－人材育成に焦点をあてて－」 河内康文講師	33名
11/22	リカレント教育講座「石巻から未災地高知へ『繋ぐ』災害ソーシャルワークの実践と教育に向けて」 長澤紀美子教授 岡本翠氏（ゲストスピーカー） 井上健朗講師（コメンテーター）	36名
12/5	リカレント教育講座「介護専門職のワーク・ライフ・バランス（WLB）とその推進方策」 橋本力助教	19名

②体験型セミナー

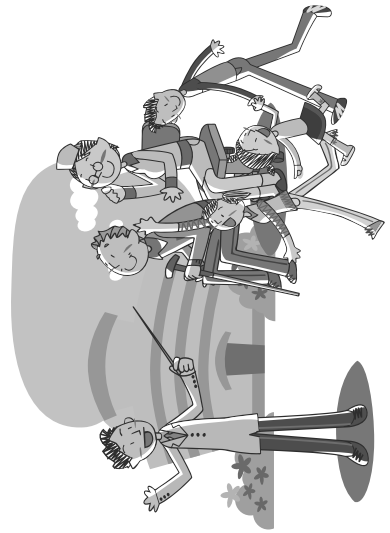
11/7	看護学部企画健康長寿体験型セミナー（中土佐町） 「あなたが紡いだ誰かの笑顔」－健康作りに取り組む人に知ってもらいたいこと－	看護学部	62名
11/8	健康長寿センター体験型セミナー（安芸市） 「認知症の予防と地域ケア」－認知症を地域で支える－	社会福祉学部	27名
2/11	健康長寿センター体験型セミナー（野市） 「冬の季節の老化予防」寒い季節のトラブル対処を考えましょう－	健康栄養学部	92名

知のフィールドへの招待
2015

開催日

- 10月31日(土)
- 11月22日(日)
- 12月5日(土)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国内唯一の公立大学であり、西日本の公立大学ではただひとつ、三福祉士資格に対応しています。



健康長寿センター事業 高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座



ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部
学部長 宮上 多加子

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

本学は平成23年度より高知県立大学に名称を変更し、男女共学となり5年目を迎えました。また、社会福祉学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員し、3つの福祉士国家資格(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士)に対応したカリキュラムで人材養成を行っています。今後にもこれまでの face-to-face のきめ細やかな教育を継続し、専門職養成の量の確保及び質の向上を目標に取り組んでいきたいと考えております。

今年度のリカレント教育講座につきましては、社会福祉学部の新任教員や例年好評をいただいている教員が担当し、福祉分野の専門職や保健・医療関係者、また地域にお住まいの皆さまへ向け、社会福祉に関する3つのテーマで講座をご用意しています。

お気軽にご参加いただきました、日頃の実践に多少なりともお役に立てれば幸いです。

講義

講師プロフィール

高知県立大学大学院人間生活学研究科(博士後期課程)在籍、四国学院大学大学院社会学研究科修士(社会福祉学)。

河内 廣文(講師)

介護人材の確保に関する動向と課題

一人材育成に焦点をあてて

長澤 紀美子(教授)

「石巻から、未災地高知へ：『驚く』災害ソーシャルワークの実践と教育に向けて」

橋本 力(助教)

介護福祉専門職のワーク・ライフ・バランスとその推進方策

院社会学研究科修士(社会福祉学)。
障害者施設での実践の後に、平成福祉専門学校、短期大学で介護福祉士養成教育に携わってきた。主な担当科目は「障害の理解」「介護の基本」「コミュニケーション技術」等である。
これらの経験から障がい者福祉に関することや介護現場における人材育成のあり方について考えている。特に、社会人を経験した介護福祉士や外国人介護人材の介護現場での学びに関する研究を行っている。2015年4月より現職。

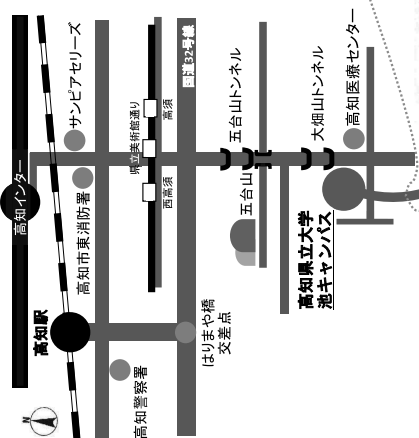
宮城県出身。担当科目は、「国際福祉論」「女性福祉論」「現代社会と福祉」等。上智大学大学院博士前期課程修了(修士・社会学)、新潟大学大学院博士後期課程修了(博士・学術)、新潟青陵女子短期大学・新潟青陵大学助手を経て、2003年より現職。2001年頃より国立医療・病院管理研究所の協力研究員として欧米の介護政策に関する研究に取り組み、イギリスをフィールドとして、福祉サービスの評価やニュー・パブリック・マネジメントに関する研究を行っている。本学のDINGL(災害看護グローバルリーダー養成プログラム)担当教員。

高知県立大学社会福祉学部 助教。博士(学術)。桃山学院大学卒業、大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻前期博士課程修了、大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻後期博士課程単位取得後退学。2011年より現職。専門は、高齢者福祉学。現在は、介護支援専門員によるインフォーマル・サポート活用および介護福祉専門職のワーク・ライフ・バランスを中心に研究を行っている。

高知県立大学福祉学部 リカレント教育講座

— 知のフィールドへの招待 —

<p>10月31日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟 1階 F110</p>	<p>介護人材の確保に関する動向と課題 一人材育成に焦点をあてて— 講師：河内 康文 (定員：100名)</p>	<p>介護人材の確保に関するさまざまな研究を戻てみると、その方策は、大きく二つに分けることができます。一つは、新たに介護職として入職する人を増やすことです。もう一つは、介護職として入職した人が定着をすることです。</p> <p>今後の介護人材の確保は、人口形態の変動や他産業への人材流出が加速的に進むことが予想されます。この予想は、介護現場で働いている方々は日増しに実感していると思います。</p> <p>本講座では、これらの介護人材の確保に関する動向を紹介いたします。このような動向のなかで、人材育成という観点から、課題改善の緒を探ってみたいと思います。</p>
<p>11月22日(日) 13:30~15:30 看護福祉棟 1階 F110</p>	<p>「石巻から、未災地高知へ：『繋ぐ』災害ソーシャルワークの実践と教育に向けて」 教授：長澤 紀美子 (定員：100名)</p>	<p>東日本大震災後、災害ソーシャルワークに関する実践報告や研究論文が多く公表され、職能団体による研修も行われるようになってきているが、災害ソーシャルワーク論の体系化・理論化および教育への応用は、今後の課題である。来たるべき南海トラフ地震に備えて、私たちは支援現場の実践から何を学び、日々の実践や教育の中でどう活かしていけばよいのか。本講座では、(公社)日本医療社会福祉協会の現地活動として、宮城県石巻市で活動している本学卒業生・大学院修士生の岡村翠さんをゲストに迎え、「繋ぐ」専門職としての中長期な支援の内容や課題を伺い、今それぞれの立場でできることを考えてみたい。</p> <p>ゲストスピーカー：医療ソーシャルワーカー 岡村翠氏 コメンテーター：井上健朗講師</p>
<p>12月5日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟 1階 F110</p>	<p>介護福祉専門職のワーク・ライフ・バランスとその推進方策 助教：橋本 力 (定員：100名)</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和を意味し、仕事と生活（家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動）に関し、自ら希望するバランスで展開できる状態とされています。</p> <p>わが国では、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、2007年に「仕事と生活の調和憲章」および「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が策定され、その真実化が目指されています。</p> <p>本講座では、今後、ますます人材の確保が求められる介護福祉専門職のワーク・ライフ・バランスについて取り上げます。継続率の問題等が課題である介護福祉専門職者を対象に、仕事と生活、その両方ともを充実させる働き方について考えていきます。</p>



- J R 高知駅から車で約20分
- はりまや橋からバスで約20分
- 高知インターから車で約20分

高知県立大学福祉学部

Faculty of Social Welfare, University of Kochi
池キャンパス

〒781-8515 高知県高知市池2751-1

本講座に関するお問い合わせ先

Mail : recurrent-sw@cc.u-kochi.ac.jp

TEL : 088-847-8610 (実習支援室内)

FAX : 088-847-8672

http://www.u-kochi.ac.jp/~fukushi/

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

井上 健朗

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成 27 年度は、昨年引き続き共同研修会（上記事業 3）にあたる）を毎月 1 回、定期開催した。専門性の向上を目指した事例検討を中心としたソーシャルワーク部門のメンバーでのクローズドの研修と本年度は看護局との共同研修会を開催した。
2. ソーシャルワーカーと教員とによる共同研究（上記事業 4）にあたる）として、「転院に影響を及ぼす患者の背景要因の分析—ソーシャルワーカーの介入開始から転院までに着目して」を全国自治体病院学会に発表することができた。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

今後の課題としては、定例研修会のあり方の検討や内容の見直し、および新たな共同研究の実施に向けての検討等がある。具体的には事例検討・発表の内容および方法の検討や研究発表に向けての医療センターソーシャルワーカーと教員のプロジェクト作りなどがあげられている。

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

回数	実施日(場所)	参加人数	事業内容
1	4月15日(水) やなせすぎ	16名	①参加者自己紹介 ②本年度計画の確認
2	5月20日(水) 県立大学社会 福祉学部棟監 察室	13名	①事例検討「深刻な状況にあるクライアントの怒りに面して」 ②診療科別プレゼン
3	6月17日(水) 県立大学社会 福祉学部棟監 察室	11名	①事例検討「これからは、お詫びと感謝の心で生きられるだけ生きます」 ②日本社会福祉協会学会総会報告
4	7月15日(水) 県立大学社会 福祉学部棟監 察室	13名	①事例検討「限られた時間の中で」 ②退院支援専門ソーシャルワーク研修報告 ③研修報告「記録-プロセスからプログ्रेस記録へ」
5	8月19日(水) 県立大学社会 福祉学部棟監 察室	10名	①事例検討「目指せ。躍進するケース会議」 ②「豊かないのち」講演会報告
6	9月16日(水) やなせすぎ	25名	講演会 テーマ「地域医療構想と地域包括ケア」 講師 県健康政策部 医療政策課 伴 正海 先生 座長 高知県立大学 井上 健朗 全国自治体病院学会 予演 「転院に影響を及ぼす患者の背景 要因の分析-ソーシャルワーカーの介入開始から転院までに着 目して」
7	10月21日(水) やなせすぎ	22名	①地域連携室看護師活動報告 ②全国自治体病院学会報告 ③緩和ケアにおけるソーシャルワーク研修 報告
8	11月18日(水) やなせすぎ	11名	①HIV研修 報告 ②事例検討「患者-医師間の関係調整？伝書鳩？」
9	12月17日(水) やなせすぎ	5名	①事例検討 「早急に精神科への転院が必要な患者とキーパ ーソンへの転院支援」
10	1月20日(水) 17:30～ やなせすぎ	9名	①災害とソーシャルワークについて ②事例検討「家族間の調整方法について」
11	2月18日(水) やなせすぎ	9名	①県立大学教員の講義 鈴木裕介 テーマ「医療ソーシャルワーカーが行うアドボカシー援助活動 の構成要素」
12	3月19日(水) やなせすぎ	14名	①次年度の看護・社会福祉連携部会事業計画の確認 ②本年度の振り返り

災害対策プロジェクト

二本柳 寛

○本年度の取り組み

本年度の災害対策プロジェクトは、法人災害プロジェクト担当として学外連携部会に後藤准教授、学内連携部会に二本柳助教、上田助教が参加、加えて学部委員として長澤教授、山村准教授が担当し、計5名で構成した。主な取り組みは以下の通りである。

（1）災害対策プロジェクトの会議の開催

平成27年度は、合同災害訓練の計画・実施、研修会の企画・実施、避難訓練の計画・実施、高知県・高知市との避難所協定に関する検討等について定期的に検討を行い、学部内会議を平成27年4月から平成28年3月までに計15回開催した。

（2）合同災害訓練の実施

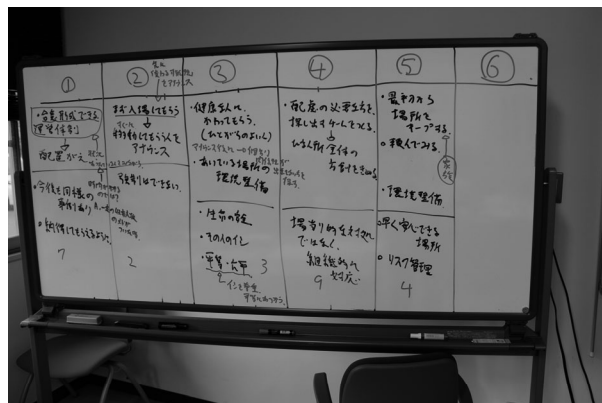
年一回実施される合同災害訓練において、社会福祉学部は主に避難所運営について進めている。本学避難所は主に医療センターを経由した軽症者、池地区住民、学生がその対象となるため、多くの避難者が来ることが想定される。そのため、いかに混乱なく円滑に避難所運営を行うことができるのか検討を重ねてきた。本年度は10月3日に合同災害訓練は実施され、おおむね運営は円滑に実施することができた。しかしながら、避難者の属性の設定やヒアリング時の工夫、エリアの区分と動線の確保、他学部との連携など、来年度以降の訓練に向けた課題が明確化した。

また、本プロジェクト担当教員が地域学実習Ⅰにおいて三里地区の未災地ツアーを担当していることから、その報告を合同災害訓練終了後に行い、より防災に対する意識を参加者に高めてもらうことができた。



（3）FD 共催による『「さすけなぶる」を活用した避難所運営シミュレーション』の開催

10月19日、FD委員会との共催にて、高知大学地域協働学部・大槻知史准教授を講師として依頼し、研修会『「さすけなぶる」を活用した避難所運営シミュレーション』を実施した。本研修会は社会福祉学部教員のみではなく、他学部教員・学生（イケあい）を含め25名の参加を得た。アンケートの結果により、おおむね好評を得られたことから、今後も定期的な研修の機会を設定したい。



（4）避難訓練の実施

12月1日に避難訓練を実施した。避難場所の設定を行う中で、社会福祉学部棟のみで学部学生を避難させることが難しいことが判明したが、一時避難場所として、E204、E311、E415を設定し、おおむね問題なく避難行動を行うことができた。しかし、避難訓練時の放送が教室内では十分に聞き取ることができない、また4学年全体が学内にいた場合の避難場所の確保については、今後の検討課題として残された。なお、これについては、その後、共用棟の活用などにより収容のめどがついており、今後は最悪の事態を想定した上での訓練実施が必要であると考えられる。引き続き検討を行っていきたい。

総務・予算委員会

山村 靖彦

総務・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

- ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計20回）。

② 「学部懇談会」の資料準備及び運営

- ・ 開催計画、議題および資料等の整理、次第の作成等を行った（計5回）。

③ 福祉実習支援室、社会調査実習室等施設・備品の整備

- ・ グループワーク実習室（E 203）に外壁扉を設置した。
- ・ E 103教室のプロジェクタが劣化により使用不可となったため、教務第一課と協議のうえ新規取替えを行った。
- ・ 福祉調査実習室（F 207）にプロジェクタを新規設置した。
- ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空きゼミ室や福祉調査実習室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、ハードディスク管理及びウィルス対策のソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

④ 学部日常事務の対応

学部事務職員の協力を得て、寄贈資料・郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。

⑤ 『平成26年度社会福祉学部報』『学部パンフレット』発行

平成25（2013）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。また広報委員会との協力により、『高知県立大学社会福祉学部（学部パンフレット）』を一部改訂し1,300部を発行した。学部パンフレットについては、次年度に大幅改定を予定しており、本年度はそのための準備作業や予算の調整等を行った。

⑥ 卒業生動向調査並びに卒業生を対象した各種案内の送付

実習委員会・全学キャリア支援部会・健康長寿センター委員・大学院学務と協力し、卒業生の動向調査・卒後のニーズに対するアンケート調査を行うとともに、リカレント教育講座や大学院案内等を卒業生に送付した。

⑦ 学生教育用図書・資料等の充実

委員会活動年度報告書（総務・予算委員会）

- ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通して定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の実を充実を図った。
- ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書を選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

⑧ 平成27年度社会福祉学部リカレント研究会事業

事業名	担当教員	開催日（回数）	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク学習会	西梅 幸治 加藤 由衣	4月9日～ 1月28日 (計7回)	本学習会は、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や事例検討、スーパービジョンなどを年7回に渡り実施した。また関係機関の専門職を招いての講話により、キャリア形成や社会資源の知識獲得に寄与した。このような内容により、参加者の力量を高める機会となった。	延べ39人
介護コース卒業生を対象としたKOMI記録シートを活用した事例検討会	宮上多加子 後藤由美子 三好弥生 河内康文 上田恵理子 田中真希	8月6日（木） 11月7日（土） 3月19日（土） (計3回)	1回目は新しいKOMI記録用紙（県立大Ver.）を提示し、意見交換を行った。 2回目の事例検討会では、教材として作成した在宅高齢者の事例を用いた。事例について情報の整理や追加を行うと共に、情報を記録に記載し実際に活用し、意見交換を行った。 3回目の事例検討会では、卒業生が担当する事例について、KOMI記録シートを用いて事例検討を進めた。 計3回の事例検討会では、参加者は多様な職場に在籍しているため、多角的な視点で事例検討を行うことができた。また、KOMIケア理論について振り返り、介護の基本について自己省察を行うとともに、実践現場における課題解決の一助となった。	延べ21人
社会福祉学部12期生リカレント研究会	長澤紀美子 (井上健朗、加藤由衣、山村靖彦)	12月6日（日） (計1回)	前半は、現場経験4年目のソーシャルワーカーとしての葛藤や思い、大学に求めることなどをKJ法を用いて話し合った。後半は、領域ごとに分かれて専門職としての実務経験のある教員と共に、今後の学習の方向性を確認した。 卒業生が現在抱える課題として、組織体制の問題、スーパービジョン等によるSW	5人

委員会活動年度報告書（総務・予算委員会）

			の専門性を高められる環境にないこと、新人教育、個人の生活との両立等が挙げられた。今後、大学から継続的なキャリア支援の必要があることを確認した。	
ソーシャルワーク学習会	西内 章	10月9日(金) 11月6日(金) (計2回)	①ソーシャルワーカーとして、実践の課題について、スーパービジョンにて明確化する。 ②実践の課題について、社会福祉制度の最新動向やソーシャルワークの知識について学習が必要なことを共有し、今後、継続的に学習を行う必要性を確認した。	各2人 延べ4名
社会福祉学部10期生	西梅 幸治	2月13日(土) (計1回)	本研究会では、①所属・近況報告、②グループ協議、③協議報告、④ふり返りの流れで実施した。②については、仕事のこと、家庭のこと、転職のこと、資格取得のことなどについて積極的に意見交換がなされた。 協議をとおして、共感と分かち合いを通じたストレスケアの機会となった。また、関係機関の連携についての相談やケース相談をしたグループもあり、参加者の専門的力を高める機会ともなった。今後もこのような機会を設けてほしいとの意見が多数であった。 なお当日は、13:00より14:50まで、福祉事務所に勤務する卒業生を講師に、2回生希望者4名を対象として、仕事内容や受験対策についての座談会を開催した。こちらも、在学生在が熱心に聞き入る実り多い会となった。	15人

2. 今後の課題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応等については、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。また、教員数の増加に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化・効率化等については引き続き検討していく必要がある。

学部で取り組むべき今後の重点事項としては、卒業生に対するキャリア支援や入試を視野に入れた広報等があげられる。これらが的確に実施されるには、本委員会による当該事業の運営管理や適切な予算の執行等が行われなければならないと考える。

なお、「社会福祉学部リカレント研究会事業」については、今後は平成28年度に学部の新設される「キャリア支援委員会」にて実施していく予定である。

国試対策ワーキンググループ

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策ワーキンググループは、西梅准教授、遠山講師、鈴木助教、稲垣助教、加藤助教、二本柳助教、橋本助教の計7名で構成した。

（1）4回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤社養協などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要	備考
4月	国家試験に関するガイダンス（4/3）	
5月	国家試験に関するガイダンス（5/15）、国家試験関連参考書などの貸出開始	
6月	学内模擬試験（6/19）	
7月	学内模擬試験（7/31, 8/6）、個別面談	
8月	「受験の手引」解説（8/17）	
9月	「受験の手引」解説（9/24）	
10月	模擬試験（10/4）、受験対策直前web講座周知	模試（高知県社会福祉士会）
11月	社士・精士模擬試験（10/30, 10/31）、国試対策講座	模試（社養協・精養協）
12月	国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談	
1月	国試対策勉強会（1/6～8）、個別面談、自己採点集計（1/29）	国試当日（1/23, 24）
3月	合格発表（3/15）、卒後の手続きに関する説明（3/17）	

（2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（3）2015年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
98	61	62.2%	69	51	73.9%	29	10	34.5%

[福祉系大学等ルート：受験者10人以上]

委員会活動年度報告書（国試対策ワーキンググループ）

合格順位：全国 19 位（既卒含）、全国 21 位（新卒のみ）／215 校（総数での学校数）

合格基準点：88 点（満点 150 点）

全国平均合格率：26.2%

合格順位：全国 4 位／139 校（既卒含）、全国 3 位／60 校（新卒のみ）

／（受験者 50 名以上）

2) 精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
29	27	93.1%	26	26	100%	3	1	33.3%

〔保健福祉系大学等ルート：受験者 10 人以上〕

合格順位：全国 4 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／109 校（総数での学校数）

合格基準点：86 点（満点 163 点）

全国平均合格率：61.6%

合格順位：全国 2 位／58 校（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）1／26 校

／（受験者 20 名以上）

○今後の課題

今年度は、点数が伸び悩む学生については早期に関われるように、前期中に面談を実施した。また後期の面談については、一昨年度から活用している面談シートを修正し、支援の強化を図った。3年間をとおして、対策基準が見えてきているが、学部定員増と男女共学化に対応した国試対策への支援が継続的に必要である。特に今後は、合格を目標に、これまで以上に学部全体で働きかけることが求められると感じている。加えて在学中に合格できなかった卒業生への対応も課題となるだろう。そのため個別ではもちろん、年間の取り組みをシステム化して、可能な限り対応する必要があると考えている。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度は、国試対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを取り、要望の多かった科目を中心に、先生方へ講座をお願いしました。これまでの国試の出題傾向を基に、法律や制度・政策の内容が変更した点等、重要なポイントを絞って講座をしていただけたことで、重点的に勉強すべき内容を捉えることができました。講座を受けることによって、理解しているつもりになってしまっていた点に気付くことが多くありました。試験日が近づく中で焦りを感じましたが、先生方が用意して下さった資料も活用しながら、しっかりと復習することで確実な知識にすることができました。

また、対策講座は録画したものを借りることができるようになっていたため、DVDを見ることで、出席することができなかった講座を受けることもできました。

国試対策勉強会について

本年度、私たちは国家試験に向けて国試対策勉強会を合宿形式で高知県の町で行いました。自宅や学校とは違った環境に身をおき、勉強のみに集中しました。自分一人では分からないことも、学部の友達と話し合ったり、応援に来て下さった先生に質問したりと、理解するまで話し合いました。朝から深夜まで机に向かい、食事の時はみんなと一緒にしゃべりをしながら息抜きをし、勉強のペースをつかむことができました。

合宿中は多くの先生方から、差し入れや激励の言葉をいただきました。合宿先の方々もサポートして下さい、たくさんの方が私たちを応援して下さいていることを実感しながら勉強することができました。

合宿中に一番心強かったことは、一緒に勉強している友達の存在です。集中力が切れそうになっても、頑張っている友達の姿を見て、自分も「もっと頑張らなくては」と刺激を受け、集中して勉強に取り組みました。後輩の皆さんのうち、友達と一緒にならより良い勉強のペースがつかめそうだと思う方は、是非合宿に参加して国家試験に向けてのラストスパートをかけてください。

後輩の皆さんへ

4 回生は国試だけでなく就活や卒論、実習などで忙しくなり、それら一つ一つを満足していくものにするには決して簡単ではありません。そこでまずは、何のために国家資格取得を目指すのか、もう一度自分自身と向き合い、じっくりと考えてみて下さい。あなたにとって土台となる部分は、大変さを感じる時期を乗り越えて、モチベーションを維持していく上で特に重要となります。また、国試に合格するためには、自分に合った勉強方法で計画的に取り組むことが大切です。不安な気持ちに押しつぶされそうになることもあるかもしれませんが、時には友達や先生方の力も借りながら、夢に向かって進んでいって下さい。

国際交流

1. エルムズ大学（アメリカ）短期留学研修生との交流

2015年5月28日、エルムズ大学短期留学研修生9名と社会福祉学部3回生が生け花教室で交流し、社会福祉入門演習では、社会福祉学部1回生による折り紙教室等を実施しました。



（学生の感想）

- 私は、英語がほとんど分からなかったもので、エルムズ大学の学生さんとうまくコミュニケーションがとれるか不安でした。しかし、同じ作業をする中で笑顔を見せてくれたり、逆に教えてもらったりして、お互いに良い思い出になったと思います。
- 今回、国際交流委員としてさまざまな企画をした中で、日本について、高知についてエルムズ大学の学生さんに知ってもらいたくて、何回も話し合いを繰り返し、どうしたら伝わるのか、何よりどうしたら楽しんでくれるのかを常に頭に入れていました。国際的な交流は私自身はじめてだったので、日本のこと、外国のことについて深く考える良い機会になりました。
- 私が活動を通して思ったことは、英語でうまく相手に伝えられないはがゆさでした。司会進行でも英語を使う場面がありましたが、エルムズ大学の学生さんはあまり理解していないようでした。折り紙の時もたくさん質問したいことがあるのに、うまく英語で伝えることができませんでした。もっと英語を頑張りたいです。
- 英語がもっと話せたら！と思った90分間でした。あまり深い話はできませんでしたが、外国人と交流すること自体少ないので、委員を含め全員楽しめたと思います。年下の子どもをおもてなしするよりも、同世代の方をおもてなしするのは、企画が大変だったように思いました。もっと英語を勉強して、機会があれば是非また参加したいです。

2. エルムズ大学（アメリカ）への短期留学

2016年2月20日～3月8日の日程で、エルムズ大学短期留学研修に社会福祉学部から2名の学生（2回生）が参加しました。

（学生による体験記）

- エルムズ大学では英語や専門科目の講義に参加したり、小学校や病院を見学したりしま

学生を中心とした活動（国際交流）

した。また、フレンドシップパートナーとの関わりの中で、アメリカの文化やマナーに触れ、コミュニケーションや考え方の多様さに新鮮さを感じました。そして、異文化交流・理解を通して新たな関係が生まれ、日本の地域を見つめ直し、私自身の将来と向き合う重要な機会になりました。

○私は介護コースなので実習があり、今回しかチャンスがありませんでした。今回参加できたことは本当によい経験となりました。毎日英語で話すことで、少しずつ英語に慣れていき、リスニングやスピーキングの能力が向上していくことが自分でも実感できました。何よりもエルムズ大学生の友達も増えて、今でもSNSでつながり、交流できることが嬉しいです。

エルムズ大学で過ごした日々の毎日は、新たな発見ばかりで、とても楽しかったです。アメリカの文化と日本の文化の違いが多く見られました。この貴重な経験を忘れることなく、大切にしていきたいと思います。



3. タイ国際ソーシャルワーク研修への参加

2016年2月29日～3月7日の日程で、タイ国際ソーシャルワーク研修に社会福祉学部から10名の学生（1回生6名、2回生4名）が参加しました。

3月5日には、本学学生とウボンラーチャターニー大学の学生が共にエイズ患者の支援施設を訪問し、意見交換を行いました。



（学生の感想）

○タイソーシャルワーク研修で最も印象に残っていることは、“人の心の温かさとながりの強さ”です。日本とは異なる環境の中で、言葉も通じず戸惑いも多くありました。そのような中で、楽しく充実した時間を過ごすことができたのは、村の人の優しさのおかげです。また、村の人たちのつながりがとても強いと感じました。日本は制度や設備など充実している面は多いが、“人の心の温かさとながりの強さ”が核家族化・人同士のつながりの希薄化が進む現在の日本には必要であると強く感じました。

○タイ国際ソーシャルワーク研修では、日本とは異なる社会問題について知ることができ、衝撃を受けました。特に、子どものドラッグの問題では、小学校でもドラッグが出回っている現状を知り、環境が子どもに与える影響について異なる視点から考えることができました。この研修を通して、新たな視点で物事を見る姿勢が身についたと思います。

学生を中心とした活動（国際交流）

- 私はタイ国際ソーシャルワーク研修の中で、村でのホームステイを体験しました。言語も生活習慣も異なる環境で印象深かったことは、「人とのつながりの強さ」でした。村の人は近所付き合いが深く、挨拶も盛んでした。また、家族も多くの世帯が3世代家族でした。子を村という社会で育てているように思いました。制度やサービスを整えることは福祉において大切です。同時に、身近な人付き合いを深めることが、生活の質を高めることにつながるのではないかと改めて考える良い機会となりました。
- 同じアジアでありながらも文化や生活様式、言語等に違いがあり、困惑したこともありましたが、また、タイでは社会福祉に資格制度が無いため、専門性があやふやなところもあり、驚かされました。しかし、携わる人々の「人のために何かしたい」という思いは、国が違って同じで、大切にしているものだと感じました。貴重な体験となりました。

4. 友好姉妹都市学生等交流推進事業（さくらサイエンスプラン）への協力

高知県と友好姉妹都市である安徽省内の安徽中医药大学等3大学の代表団（さくらサイエンスプラン：学生・院生・教員計16名）が9月30日に本学を訪問した際、社会福祉学部1回生の留学生李傑さんは、健康栄養学部・看護学部での講義やディスカッションに関して、資料の翻訳と授業での通訳を行いました。社会福祉に関わる用語だけでなく、健康栄養や医療に関する専門用語も見事に訳し、関係者の方から非常に高い評価を頂きました。



（学生の感想）

- 国際交流活動には何度か参加したことはありましたが、通訳補助を担当するのは初めてでした。正直に言えば、非常に緊張しました。資料の翻訳は問題ありませんでしたが、活動内容の一つに、授業内容を通訳するという項目がありました。当日は、緊張し過ぎて内容を聞き取れずに、結局、授業担当の先生に内容を繰り返してもらった場面がありました。しかし、私にとっては、たいへん貴重な経験となりました。なぜなら、今回の活動を通して社会福祉以外の分野にも触れることができ、これからの留学生活に大きな自信を与えたからです。今回の活動で、訪問団体の学生に留学の心得も共有できました。中国の大学生に日本に対する理解を深めてもらい、両国の友好に少しでも力になればと思います。

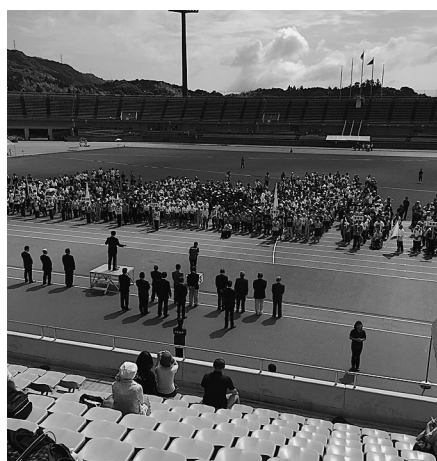
学外イベントへの参加

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2015年5月31日（日）、高知県立春野総合運動公園およびボウルかつらしまにて開催された第17回高知県障害者スポーツ大会に、社会福祉学部の1回生71名がボランティアとして参加しました。

毎年開催されるこの大会は、県内から約1,300名の人々が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。

本学学生は春野総合運動公園会場の担当として、陸上やペタンク、フライングディスクなどの競技運営や、表彰式のサポート、駐車場案内など、それぞれの役割を一生懸命こなしていました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。



太 鼓 部

太鼓部は現在4年生9名、3年生6名、2年生7名の計22名で活動しています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。昨年度は、初めて文化学部と健康栄養学部の学生が入部し、高知県立大学4学部の学生が揃いました。演奏活動では、紅葉祭・卒業式の学校行事への参加や三里祭りをはじめとした地域のお祭りごとはもちろんのこと、福祉施設の訪問など太鼓の演奏を通して地域の人たちと交流しました。

特に昨年度は、佐川町尾川地区での秋と春のお祭りに参加し、運営の手伝いなどを通し、より多くの地域の人たちと交流する機会がありました。小規模のお祭りであって、地域の皆様の来場がほとんどでしたが、演奏の後には暖かい拍手や盛り上げてくれる人がいたことから、地域の暖かさを感じるとともに、地域に出て演奏活動をすることの意義を、部員一同、改めて感じることができました。

一つの曲を仕上げる際に、叩き方や口伝だけでなく、「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのためには本番までに何度も話し合い、練習を重ねなければなりません。昨年度は部員が最大人数となったことで、上手い出来ない場面や、ぶつかる場面も多かったです。しかし、そういったことを乗り越えることで曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくことが感じられます。また、訪問先の福祉施設や地域のお祭りでは多くの方に「来年も楽しみにしているね」と喜んでいただいています。地域との交流から私たちが得るものは多く、次の練習の励みとなっています。は多く、日々の練習の励みとなっています。



太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができます。さらにそれらの経験は大学を卒業した後も必ず役に立ちます。太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週2回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えるような会話文を考え、手話の本を中心に調べて学んだり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、11月の紅葉祭、2月に行われる耳の日記念集会の主に2回です。今年度は、耳の日記念集会で「風になりたい」、「世界に一つだけの花」の2曲を手話コーラスで発表しました。手話青年部の方々と一緒に練習を行い、演出なども考えました。発表では、観客の皆さんが手話コーラスを真似して一緒に行ってくれ、温かい雰囲気の中で発表を終えることができました。また、青年部の方々は、毎年交流会を行っており、今年度はサッカーやキックベース、昼食やお菓子を食べながらの交流をして楽しみました。さらに、耳の日記念集会に向け、練習を兼ねた交流会も行いました。青年部の方々との交流は、手話の本を使うよりも大きな学びがあり、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、手話でつながる楽しさを感じることができました。今後も、手話を通したつながりを大切にして活動していきたいと思います。

また同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在、社会福祉学部の学生が中心ですが、健康栄養学部や看護学部の学生も参加しています。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思います。よろしくお願いします。



～手話交流会の様子～

い け と べ ！

私たちは、日本で使われなくなった車いすを整備し、海外旅行をする旅行者に手荷物として託し、発展途上国の病院や施設に送り届ける活動を行っている認定NPO法人「飛んでけ！車いす」の会の活動に感銘を受け、「いけとべ！」として活動しています。



「いけとべ！」は、「日本で使われなくなった車いすを高知女子大学池キャンパスから発展途上国へ飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されたサークルです。

普段は、車いすの整備を中心として活動しています。また、広報活動や活動資金の調達の一環として、福祉系のイベントや学園祭等で出店を行っています。



2015年度は、3月上旬に行われたタイ国際ソーシャルワーク研修において、車いすを必要とする男性に、研修生を通じて数年ぶりに車いすを届けることができました！

現在部員数は3回生3名、2回生1名の計4名で、学生会館2階フリースペースにて活動しています。世界中で車いすを必要としている方のもとに一台でも多くの車いすを飛ばせるよう、今年度も充実した活動を行っていきたいと思います。

イケあい

イケあい地域災害学生ボランティアセンター（通称：イケあい）は 2011 年 3 月に発災した東日本大震災の復興支援ボランティアに参加した学生によって、来る南海トラフ地震に備えて作られた防災サークルです。（以下ボランティアセンターは VC と表記。）

部員は社会福祉学部、看護学部、健康栄養学部、文化学部の学生計 73 名で構成されています。現在は、普段から顔の見える関係づくりのための地域防災活動、災害時に他大学の学生と上手く連携をとるための大学連携活動、既存の行事以上に学生と地域との関われる場を作るための地域交流活動、そして高知県で震災が起こった際に学生も VC の一員として動けるように人材を育成する VC 運営活動 の 4 つの活動を主として取り組んでいます。

メンバーに大学内の 4 つの学部の生徒が所属しているというのもイケあいの特徴です。各学部の特色を活かし、今年度からは社会福祉学部・看護学部は地域の方や学生を交えた手浴教室。看護学部は身近なものを利用して災害時に役立つグッズを作るという企画。健康栄養学部は、ライフラインが途絶えた時に自宅の冷蔵庫やその他に備えてある食料を使って生き抜いていく（=servive）ための食料「サバイバル飯」を体験・調理する「サバイバル飯コンテスト」を実施しました。今後は文化学部の特色も取り入れて活動の幅を広げていきたいと考えています。

イケあいはこれらの防災活動の取り組みが認められ、平成 27 年度防災甲子園において大学部門 3 位にあたる奨励賞を受賞しました。特に評価していただいた取り組みは「イラストを使った HUG（避難所運営ゲーム）」です。災害時の避難所運営をゲーム形式で体験することのできる HUG を小さな子供や小学校低学年の子にも分かりやすく扱うことのできるようにしたもので、イケあいの部員が実際に小学校へ行き、出前授業を行ったりもしました。

今後も、まだ被災していない地、そしてこれから被災することが考えられる（未災地である）高知で、自分たちが何をすべきかを考え、活動に繋げていきたいと思えます。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。2015年度のメンバーは社会福祉学部の3回生2名、2回生2名、1回生9名の合計13名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

- ・ 正面玄関や花壇の清掃
- ・ 花の植替えや水やり
- ・ 入院患者の入院室までの案内
- ・ 外来患者の案内
- ・ 図書サービス
- ・ 小児の見守りや作業
- ・ 募金の呼びかけ
- ・ バザーの準備、当日の手伝いや片付け
- ・ クリスマスツリーの飾りつけや片付け



などがあります。

同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当たっての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して、職員やボランティア関係者、患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

2015年度は高知医療センター開院10周年記念の年であり、式典に参加し植樹の手伝いもでき、貴重な経験ができた年であったと思います。正面玄関で花の水やりや清掃をしている時には、患者さんから声を掛けて頂くことが多く、とてもやりがいを感じます。今後も更に活動する意欲を持って活動したいと考えています。

2016年度以降は、今年度の反省も活かし、メンバー全員がより積極的に活動に参加できるよう工夫して行きたいと思っています。

かんきもん

こんにちは！ボランティアサークル「かんきもん」です。かんきもんは、「農家・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトのもと活動しています。

現在、かんきもんは「援農隊」「YCPK」「傾聴ボランティア」「学習支援」「タウンモビリティ」5つ活動を行っています。

◇援農隊 and 地域交流

主に中山間地域を訪れ、農作業のお手伝いなどの地域貢献に取り組んでいます。また、平成27年度には安芸市入河内の特産品を日曜市に出店しました。

◇Young Crime Prevention in Kochi:若者防犯ボランティア in Kochi (YCPK)

三里地区の小学生の登下校時の見守り活動や防犯教室のお手伝いを定期的に行い、地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、地域の安全・安心に向けた取り組みをしています。

◇傾聴ボランティア

市内中心商店街の一角を拠点とする買い物支援のNPO活動に協力しながら、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。

◇学習支援

「サポート・スペース」と連携しながら、太平洋学園の教室をお借りして小学生～高校生までの学習支援を行っている。また、「ひろっぱ」を拠点としている学習支援を含んだ子どもの居場所づくりの支援も行っています。

◇タウンモビリティ

グループホームや一人暮らしの高齢者・障害者の自宅を定期的に訪問し、コミュニケーションを図り、話し相手となることで少しでもその方の生きがい、QOLの向上につながればという思いで活動しています。

四万十市西土佐地区大宮での田植え



日 曜 市



タウンモビリティ



かんきもんでのボランティアを通じて、地域や高齢者、児童など自分の興味・関心のある分野を発見し、将来の進路を考える上での良い経験を得てもらいたいと思います。

ボランティア活動

上田 恵理子

○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

○本年度のボランティア参加状況

日 時	種別・主催者・企画名	内 容	人数
4月～2月	教育委員会	プレイセラピーへの参加	13
4月～3月	社会福祉協議会	障害のある人との関わり（傾聴ボランティア）	1
5月30日	第17回高知県障害者スポーツ大会	運営補助・競技補助	72
5月31日	特別養護老人ホーム	感謝祭ボランティア	6
5月31日	津野町内	滝清掃ボランティア	12
6月14日	南国市内集落活動センター	びわ、もも祭り	20
6月20日	四万十市内	田植えボランティア	21
6月～3月	適応指導教室	書道教室の開催（月1程度）	1
7月4～5日	第14回高知福祉機器展	運営補助	72
7月23日～ 8月28日	津野町社会福祉協議会	わくわくふれあいデー	1
7月25日	特別養護老人ホーム	夏祭りボランティア	8
7月25日	特別養護老人ホーム	納涼祭ボランティア	5
7月26日	特別養護老人ホーム	夕涼み会ボランティア	3
7月～8月	障害者団体	よさこいチーム補助	3
8月	NPO	子どもたちとのふれあい	5
8月	教育委員会	放課後児童クラブでのふれあい	11
8月1日	障害者支援施設	祭りのボランティア	2
8月1日	高知市内	夏祭りボランティア	6
8月8日	津野町内	夏祭りボランティア	4
8月11日	特別養護老人ホーム	レクリエーションのボランティア	1
8月13日	土佐町内	夏祭りボランティア	7
8月19日	安芸市内	敬老会ボランティア	5
9月	障害福祉サービス事業所	障害のある子どもたちとの関わり	3
9月～現在	夜間中学	学習支援	4
9月12日	障害者支援施設	祭りボランティア	1
9月12日	障害者支援施設	祭りボランティア	1
9月27日	障害者支援施設	秋祭り	2
9月27日	介護老人保健施設	交流ボランティア	3
10月3日	特別養護老人ホーム	祭りのボランティア	1
10月3, 4日	高知市社会福祉協議会	旭オンリーワン芸術祭ボランティア	1
10月8～9日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月10日	四万十市内	田植えボランティア	7

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

10月11日	障害者支援施設	祭りのボランティア	3
10月11日	安芸市内	小学校運動会ボランティア	2
10月14～16日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月14～16日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月21日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月22～23日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月24, 25日	奈半利町内	秋祭りボランティア	5
10月28～30日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
11月5日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	1
11月7日	障害者団体	講習会運営の手伝い	3
11月8日	児童家庭支援センター	オレンジリボン運動	8
11月8日	介護老人保健施設	祭りのボランティア	13
11月10～13日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	1
11月21～22日	高知県社会福祉協議会	キッズバリアフリーフェスティバル	1
11月26日	社会福祉協議会	身体障害のある方の観光時の介助	3
12月6日	タウンモビリティ	「障害者の週間」イベントボランティア	3
12月11日	特別養護老人ホーム	クリスマスサロン	1
12月12日	障害者関係団体	運営手伝い	2
12月12日	社会福祉協議会	共同募金街頭ボランティア	5
12月19, 20日	本山町内	地域福祉ボランティア	6
12月19, 28日	特別養護老人ホーム	もちつき・環境整備ボランティア	2
12月20日	障害者支援施設	クリスマス会	12
12月26日	特別養護老人ホーム	レクリエーションのボランティア	3
1月27, 23日	安芸市内	援農ボランティア	24
2月13～14日	高知県教育委員会事務局	龍馬マラソン	4
2月19日	四万十町内	地域福祉ボランティア	6
2月29日	大川村役場, 社会福祉協議会	地域福祉ボランティア	4
3月5日	地域教育研究センター	地域活性化フォーラム運営手伝い	3
3月9, 10日	三原村内	地域福祉ボランティア	5
3月23日	大川村役場, 社会福祉協議会	地域福祉ボランティア	4
3月26, 27日	土佐清水市内	地域福祉ボランティア	5
合計			443名

延べ443名がボランティアに参加した。ボランティア先は入所施設や地域活動が多い。ボランティア内容は、レクリエーションや施設が行っているお祭りの運営補助、地域交流である。また、単発的なボランティア活動だけでなく、定期的に行うボランティア活動もみられた。

特別支援学校修学旅行ボランティア

本年10月～11月、高知若草養護学校国立高知病院分校・山田養護学校・高知若草養護学校土佐希望の家分校の3校からの依頼で、本学部の介護コース学生がボランティアとして修学旅行に同行しました。この修学旅行は各養護学校のさまざまな障害をもつ生徒を対象としたもので、8回の修学旅行に12名の学生がボランティアとして参加しました。体験教室への参加や、公共施設の見学、レジャー施設での活動など、特別支援学校を飛び出して生徒と一緒に様々な町や場所に赴きました。

ボランティアに参加するまで私達は「何が出来るのだろうか？少し楽しみだな！」と様々な不安や楽しみといった感情を胸に抱えていました。しかし、いざ参加してみると特別支援学校の先生方やご家族のサポートがあり、不安になる必要は無かったのだと気付きました。当日までに行われた事前説明で修学旅行に参加する生徒や教員等と接する機会を設けていただきました。事前説明を通して私達は「生徒のお姉さんやお兄さんとして参加する事も大事かな」と、今までと違った形で障害を持つ方に接する心構えが生まれました。

ボランティアを終えた私達は、「小中高校生が対象で、実習ではあまり関わったことがない方としっかりと関わる事が出来た。実習とは違った環境で生徒、先生、ご家族と関わる良い機会だった。施設外での生徒の様子を知れる良い機会だ。学校外で活動をするとなると、いつも以上に心身に気を配る必要があり、些細な事でも気付く力が付いた」といった感想を持ち、充実感に満ち溢れていました。また、その後の大学での勉学に対する姿勢も少し変化が生まれました。「障害を持つ方だけに焦点を当てるのではなく、関わる専門職やご家族など、幅広い視野で対象者を捉えて考える習慣が付いた」また、「時に厳しく優しく、その方の年齢や個性に合った対応を心掛ける事が重要だ」といったように、自分たちの支援に対する幅も広がりました。このような変化が起きたのも、ボランティアの折々で生徒と先生方、ご家族のやり取りを身近に感じる事が出来たことや、時に厳しく優しく生徒と真摯に向き合っている先生方の姿を感じた事が大きいです。

自分たちが出来る事は何か？ボランティアが始まるまでは一方的であった考え方は、ボランティア後にすっかり変わっていました。私達はボランティアを通して介護に関する大事な気づきを与えていただきました。また、関わる方々の「生徒は年齢が近いお兄さんやお姉さんと楽しめた。教員は日頃見えていなかった生徒の一面が見れた。ご家族は少しの休養と生徒の成長を感じる事が出来た」という思いに触れる事が出来た、とても学びの深いボランティアでした。



V

卒業論文題目一覧(2015年度)

平成27年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題 目
井上 健朗	企業による社会福祉活動が従業員に与える心理的な効果について
	「総合相談」における個別支援機能と福祉のまちづくり機能の相互作用
	病院と地域の連携における組織間コンフリクトの要因分析 －退院支援の場面から－
後藤 由美子	大学生の認知症サポーター普及に関する研究 －福祉系大学生への意識調査から－
	配食サービスの役割に関する研究 －高知県中山間地域を対象として－
	BPSDを持つ認知症高齢者への支援に関する調査 －介護への抵抗に焦点を当てて－
	高齢者施設における福祉用具に関する研究 －移乗関連用具に対する介護職員の意識調査から－
杉原 俊二	入所施設における児童の愛着形成についての一考察 －児童の問題行動に潜む「甘えの欲求」に着目して－
	里親制度促進についての一考察 －高知県における児童福祉施設の里親支援を中心として－
	スクールソーシャルワーカーによる不登校児童支援 －ゆるやかなネグレクトの家庭に焦点を当てて－
	セルフヘルプグループとソーシャルワーカーとの関わり －課題の発見とその考察－
鈴木 孝典	精神障害者グループホームにおけるソーシャルワーカーの専門的知識の形成過程に関する研究 －新人ソーシャルワーカーの成長プロセスに着目して－
	精神障害者、ボランティア、精神保健福祉士の協働がもたらす地域活動支援センターの機能に関する研究 －当事者活動の場面に着目して－
	児童養護施設における施設内虐待のリスクを高める要因 －職員の情緒的関与に着目して－
田中 きよむ	中山間地域に住む高齢者の移動支援に関する一考察 －過疎地有償運送に焦点を当てて－
	地域との交流が認知症高齢者に与える影響及び交流の困難要因に関する一考察
	貧困家庭の子どもの居場所づくりに関する一考察
	市町村合併と住民支援に関する一考察 －住民と行政職員の意識に関する分析－
遠山 真世	知的障害児の主体的な進路選択が可能となる取り組みについての一考察 －特別支援学校の進路指導に着目して－
	職業性ストレスの現状把握とその要因及び予防法についての考察
	障害に関する福祉教育の充実に向けた一考察 －事前準備・実施・ふりかえりの実践事例に着目して－
	社会に潜むヤングケアラーの実態と課題 －当事者の声から支援のあり方を考える－
長澤 紀美子	地域子育て支援拠点における「妊婦・0歳児親子の集い」の機能と効果
	発達障害のある子どもを育てる母親への支援に関する研究 －親の会への参加による効果に焦点をあてて－
	児童養護施設における生い立ち整理 －援助の視点と職員の負担への対応－
	養護老人ホームにおける入居者間の相互関係に対する職員の認識と働きかけについて －入居者間の援助行動に焦点をあてて－
	非行少年の立ち直りに向けた支援 －児童自立支援施設と少年院を比較して－

西内 章	高次脳機能障害者とその家族の意識変容プロセスに関する研究 －セルフヘルプグループの活動を通して－
	筋萎縮性側索硬化症（ALS）当事者・家族の医療従事者への要望に関する研究 －医療ソーシャルワーカーへの要望を中心に－
	病院における病院機能評価への取り組みと意識の研究 －医療ソーシャルワーカーのリスクマネジメントへの意識に着目して－
	ソーシャルワークにおける傾聴概念の特性に関する一考察
	ソーシャルワークにおける「自己決定」の特性に関する一考察 －自己決定とパターンリズムの特性比較から－
	退院支援における医療ソーシャルワーカーと介護支援専門員の情報共有に関する一考察
西梅 幸治	急性期病院における医療ソーシャルワーカーの支援方法に関する研究 －患者・家族への危機介入に焦点化して－
	中途障害のある人に対する医療ソーシャルワーカーの支援方法に関する研究 －本人・家族の障害受容に着目して－
	就労継続支援事業B型における知的障害のある人への支援方法に関する研究 －利用者相互の関係づくりに焦点化して－
	災害ボランティアにおけるニーズ把握の方法に関する研究 －学生ボランティアの活動に着目して－
	児童養護施設における発達障害のある子どもに対する支援方法に関する研究 －学童期の子どもに焦点化して－
	不登校の中学生に対するスクールソーシャルワークに関する研究 －自己肯定感を高める支援方法に着目して－
	急性期医療における医療ソーシャルワーカーの支援方法に関する研究 －インフォームド・コンセント過程での心理的支援に着目して－
鳩間 亜紀子	視覚障害のある高齢者が食事の際に抱える心理的・物理的不安や課題とその支援
	高齢者施設で働く男性介護職員の役割
	独居の認知症高齢者への支援における居宅介護支援専門員の抱える困難さに関する研究
	通所介護を利用するときに高齢者が抱く否定的な感情と職員が行う支援
福間 隆康	貧困の連鎖を断ち切るために必要な方策に関する一考察 －貧困世帯の子どもを対象とした学習支援－
	知的障害者の雇用促進に関する一考察 －零細企業2社の事例分析－
	仕事と介護の両立につながる支援に関する一考察 －民間企業における介護離職への対応策に注目して－
丸山 裕子	精神障害者といわれる人へのソーシャルワーク支援 －“普通と思える生活”と「対等である」という専門性－
三好 弥生	特別養護老人ホームにおける看取りの方針決定に関する研究
	介護福祉士の倫理的ジレンマに関する研究 －特別養護老人ホームにおける介護実践に着目して－
	認知症高齢者を介護する家族の男女の特性に基づいた支援 －男女の負担感、介護の意識の違いに着目して－
山村 靖彦	地域づくりと地域の組織に関する研究 －住民の組織形成のプロセスに着目して－
	限界集落の再考 －集落の実態をふまえて－
	地域活動が学生にもたらす影響 －意識調査からみえてくる意義と課題－
	地域におけるイベントの意義と課題 －地域が継続していくために－
	日常生活自立支援事業における「自立支援」に関する研究 －専門員の「自立」に対する理解に着目して－
	地域福祉における社会資源としての「人」の役割をめぐる一考察 －地域支援サークル「茶れんじ」の運営を通じて－

編集後記

社会福祉学部報第18号が完成いたしました。

本学部報は、平成27年度における社会福祉学部全体の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績等をまとめたものです。本学部は、これまで定員拡充や共学化をはじめ、いくつもの変革をともないつつ今日に至っています。年月の経過とともに学部の雰囲気も変わっていくことはある意味自然なことかもしれませんが、学部開設以来の学生の伸び伸びとした気風や、きめ細やかな少人数制教育の良さなどはこれからも変わらず守っていききたいと思えます。学部報はこれら伝統を受け継ぎ、今後の方向性も示す貴重な「指南書」とも位置づけられますので、これを機にこれまでの17冊も顧みたいと思えます。

現在わが国では、地方創生の潮流、さらには震災への対応や課題も相まって、これまでにないほど「地方」が注目され、「地域」のあり方や住民生活のありようが問われています。地方公立大学の社会福祉学部として、また社会福祉を追究する一組織として、本学部に課せられている使命は決して小さくはないと考えております。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者のご支援ご協力のもと、県内外で活躍する社会福祉専門職を養成するという使命を果たしてきました。また、多くの卒業生が様々な現場で活躍し、実習指導者や職能団体のリーダーとして学部生の良き模範となっています。今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思えます。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 山村 靖彦

高知県立大学社会福祉学部報

第18号

発行日：2016年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

